レブロ テクニカルガイド

カスタムプロパティ

進捗管理

目　次

1.カスタムプロパティ …… 2

カスタムプロパティの追加
カスタムプロパティの編集
カスタムプロパティの利用

2.進捗管理…… 26

カスタムプロパティの設定
[進捗管理]パネルの表示
[進捗管理]パネルの設定
日付の読み込み、参照

3.確認モード…… 34

確認モードの起動
色の変更
色分けの凡例
確認モードの終了

更新日：2025/7/7　Rebro2025対応

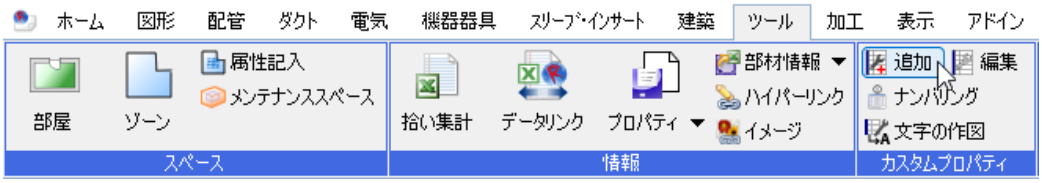
1.カスタムプロパティ

要素が持つプロパティとは別に、プロパティ項目を追加することができます。
カスタムプロパティは「テキスト」形式、「条件式」形式、「組み合わせ」形式で設定できます。
「テキスト」ではプロパティ項目[カスタム]で表示する初期値とドロップダウンリストの値が設定できます。
「条件式」では設定した条件によってプロパティ項目[カスタム]に表示する値を指定できます。
「組み合わせ」では既存のプロパティやテキストの組み合わせを要素ごとに設定し、プロパティ項目[カスタム]に表示できます。
「条件式」と「組み合わせ」は読み取り専用の項目になります。

カスタムプロパティには次のような利用方法があります。
1. カスタムプロパティの値をキーワードとして部材検索する。
2. カスタムプロパティの値ごとに拾い集計する。
3. カスタムプロパティの情報をIFC、テキストファイルに出力する。
4. 系統管理でカスタムプロパティごとに階層分けして表示する。
5. カスタムプロパティの値を図面上に記入する。
6. カスタムプロパティの値ごとに色分けして表示する。

カスタムプロパティの追加

[ツール]タブ-[追加]をクリックし、カスタムプロパティの項目を追加します。



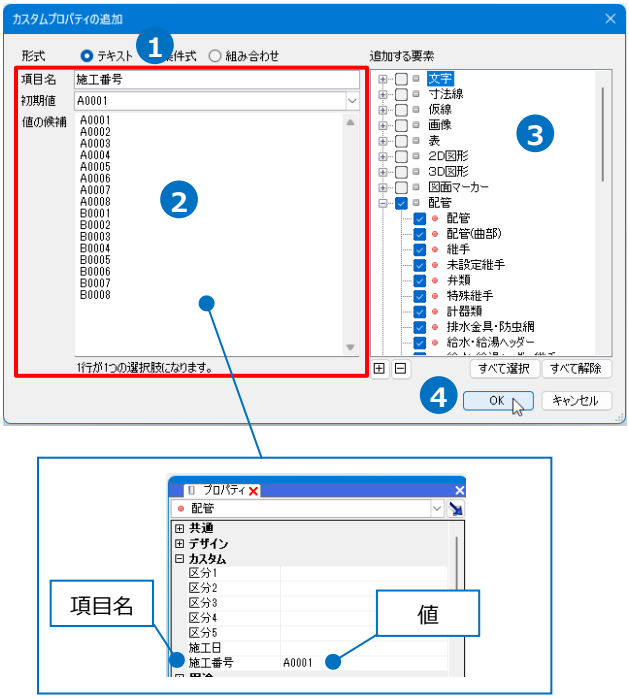
「テキスト」形式の追加

1 [カスタムプロパティの追加]ダイアログより、
形式「テキスト」を選択します。

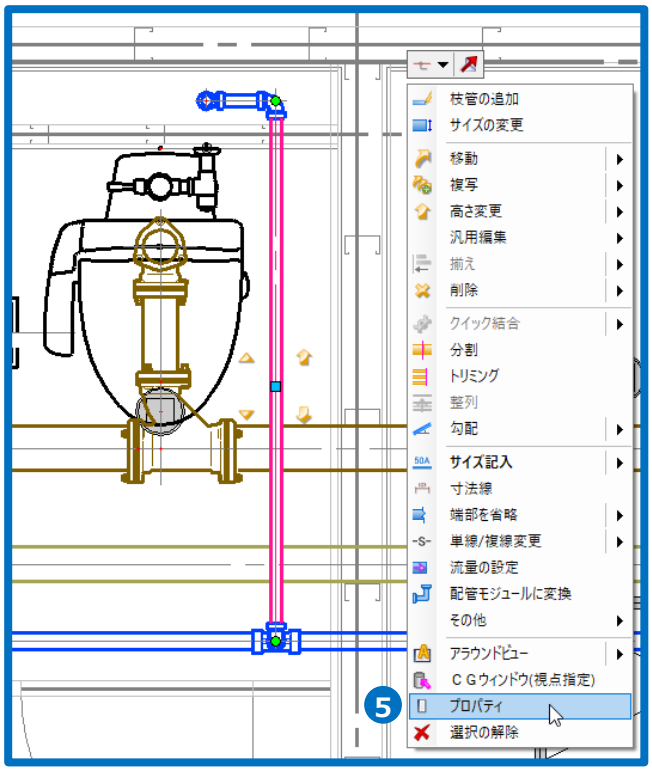
2 プロパティパネルに追加する[項目名][初期値][値の候補]を入力します。
※初期値と値の候補は省略することもできます。

3 項目を追加する要素にチェックを入れます。

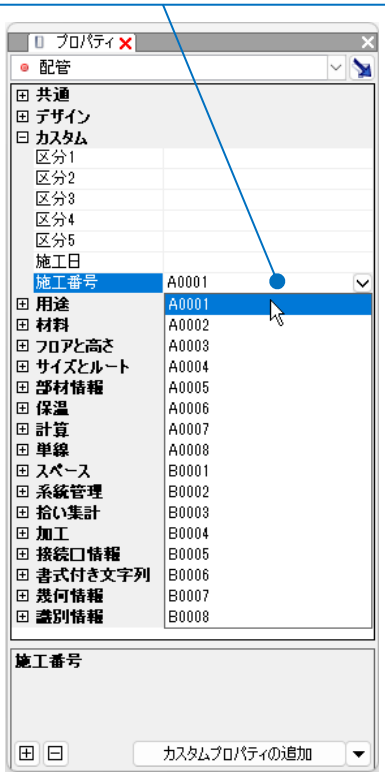
4 [OK]をクリックします。



5 カスタムプロパティを追加した要素を選択し、プロパティパネルを表示します。
→追加した項目と値を確認することができます。

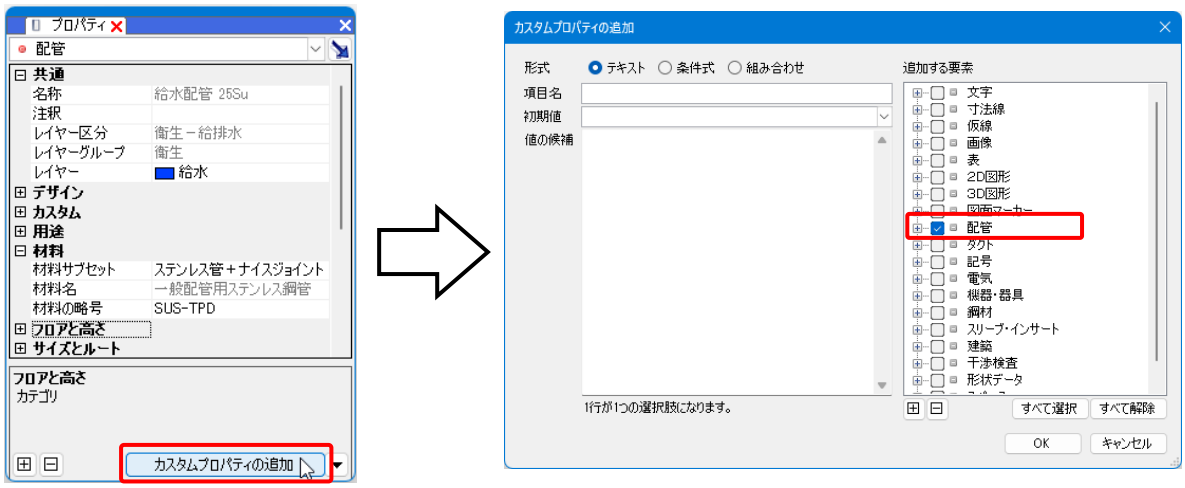


[初期値]が設定されます。
[値の候補]で設定した値から選択します。
値を直接入力して変更することもできます。



Memo

要素選択後に[プロパティ]パネルを開くと、[カスタムプロパティの追加]を行うこともできます。
選択した要素が[追加する要素]となります。



「条件式」形式の追加

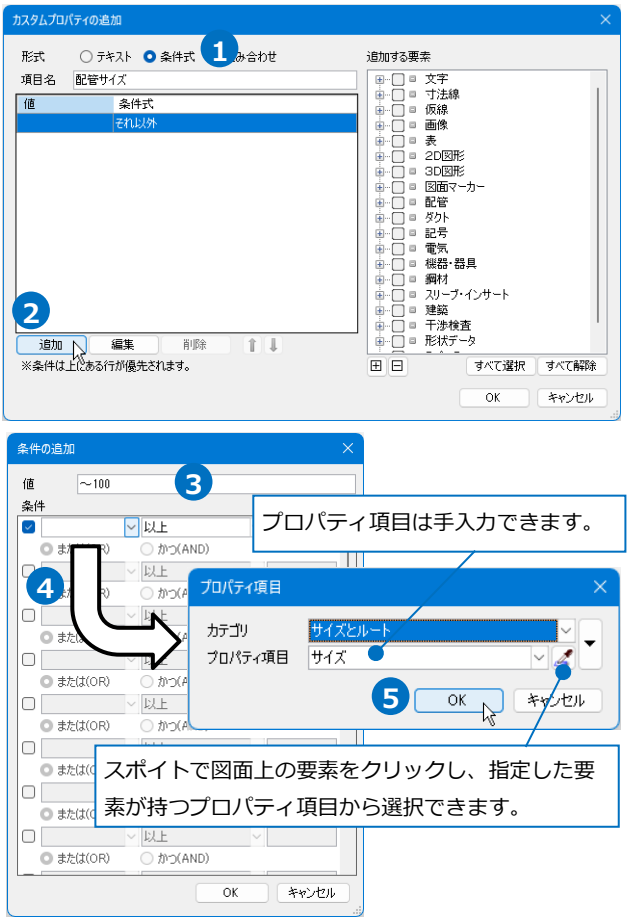
1. [カスタムプロパティの追加]ダイアログより、形式「条件式」を選択します。

2. プロパティパネルに追加する[項目名]を設定し、[追加]をクリックします。

3. 条件が一致した場合の[値]を設定します。

4. 条件にチェックを入れ、プルダウンをクリックします。

5. [プロパティ項目]ダイアログで[カテゴリ][プロパティ項目]を選択します。
   ※カテゴリ「拾い集計」「系統管理」は選択できません。



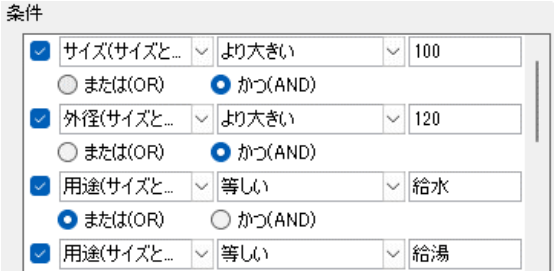
6 プロパティの条件を入力します。

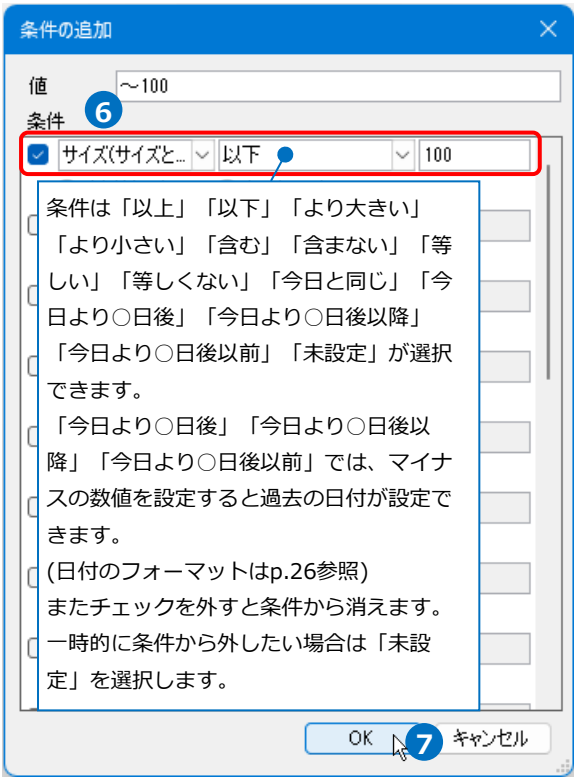
Memo

条件は最大20個設定することができます。

複数の条件を設定する場合は、「または(OR)」/「かつ(AND)」の選択でOR検索かAND検索を設定します。

「または(OR)」と「かつ(AND)」が混在する場合は、「かつ(AND)」を優先します。





7 [OK]をクリックします。

8 その他の必要な値も条件を設定します。

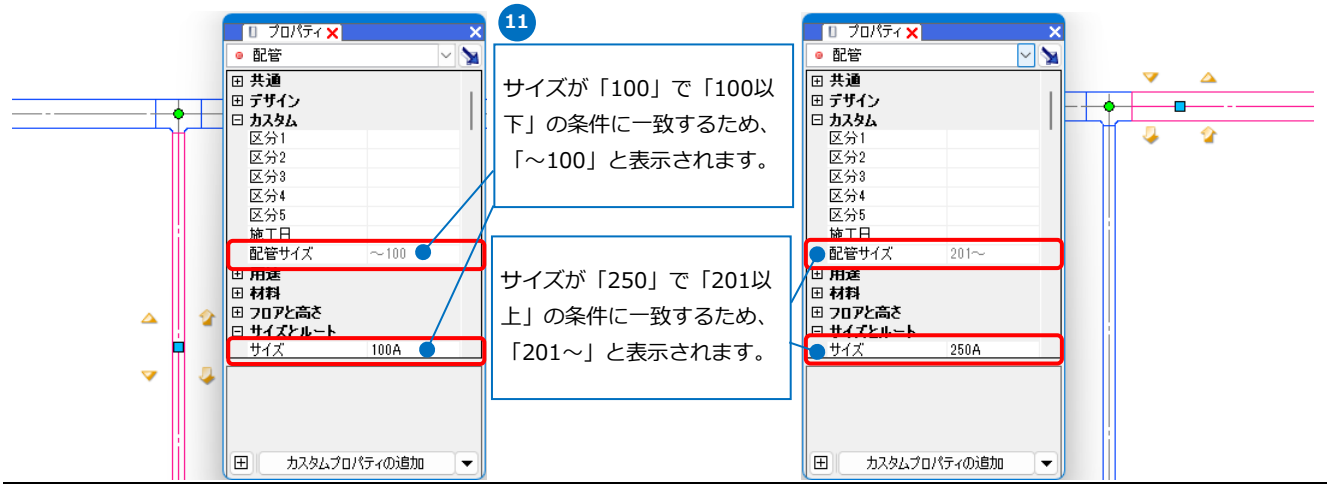
9 項目を追加する要素にチェックを入れます。

10 [OK]をクリックします。

11 カスタムプロパティを追加した要素を選択し、プロパティパネルを表示します。

→追加した項目と値を確認することができます。

複数の値を設定している場合は、条件によって値が変わります。



「組み合わせ」形式の追加

1 [カスタムプロパティの追加]ダイアログより、形式「組み合わせ」を選択します。

2 プロパティパネルに追加する[項目名] を入力します。

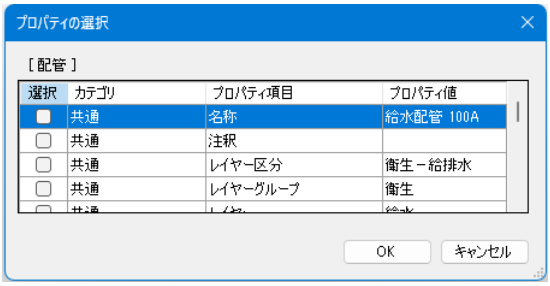
3 [追加]をクリックします。

4 [組み合わせの値]ダイアログの[追加する要素]で対象要素にチェックを入れます。

5 [値]にプロパティ項目とテキストの組み合わせを入力します。プロパティ項目を追加する場合は、[追加]をクリックします。

Memo

で図面上の要素をクリックし、指定した要素が持つプロパティ項目から選択することもできます。



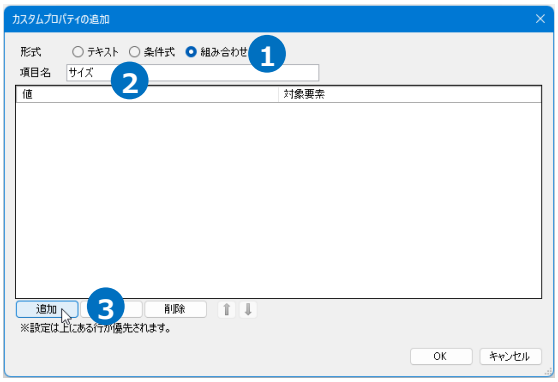
6 [プロパティ項目]ダイアログで[カテゴリ][プロパティ項目]を選択します。

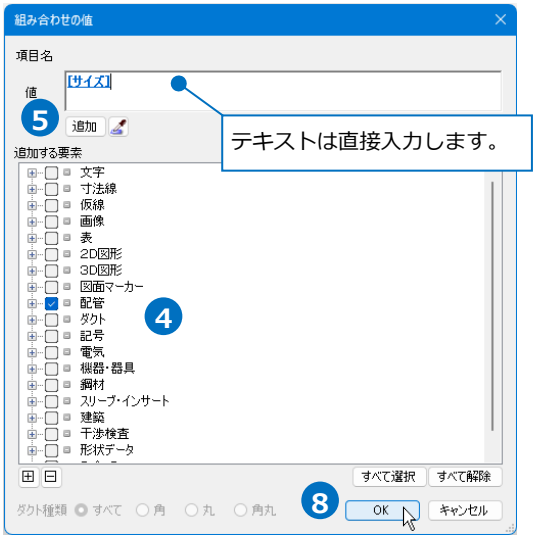
※カテゴリ「拾い集計」「系統管理」は選択できません。

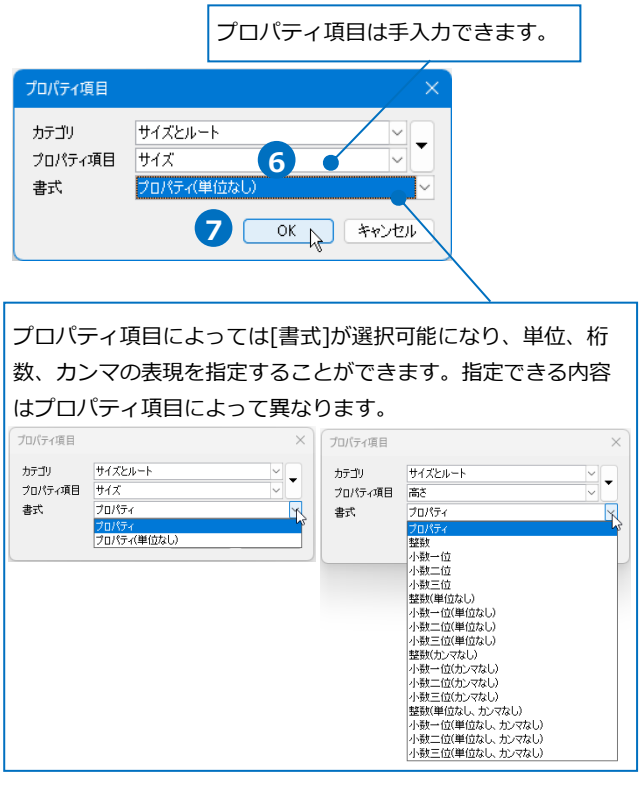
7 [OK]をクリックします。

8 [組み合わせの値]ダイアログの[OK]をクリックします。

9 組み合わせを追加する場合は、3 ～ 8 の手順を繰り返します。



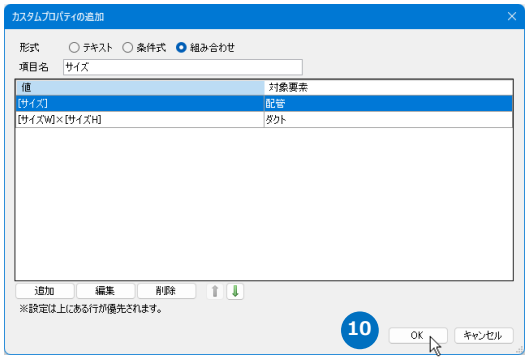




10 [OK]をクリックします。

Memo

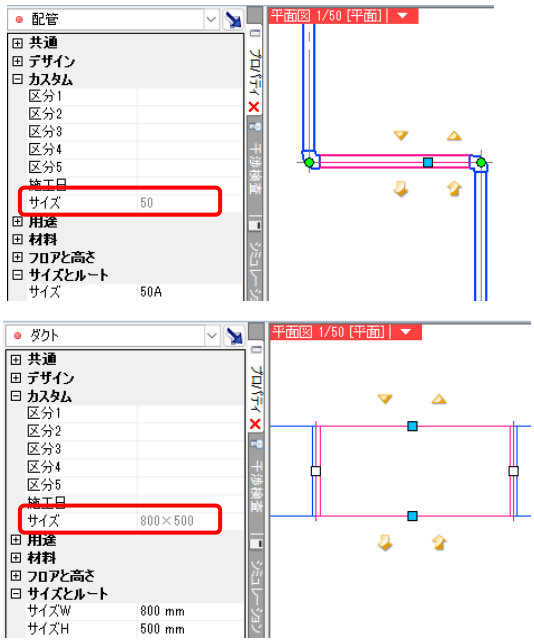
一つのプロパティ項目に複数の組み合わせを登録することができます。
異なるプロパティ項目を、共通のプロパティ項目の値として扱うことができます。



11 カスタムプロパティを追加した要素を選択し、プロパティパネルを表示します。
→追加した項目と値を確認することができます。

Memo

組み合わせ項目をExcelに保存し、編集・読み込みすることができます。
詳細はp.14を参照してください。

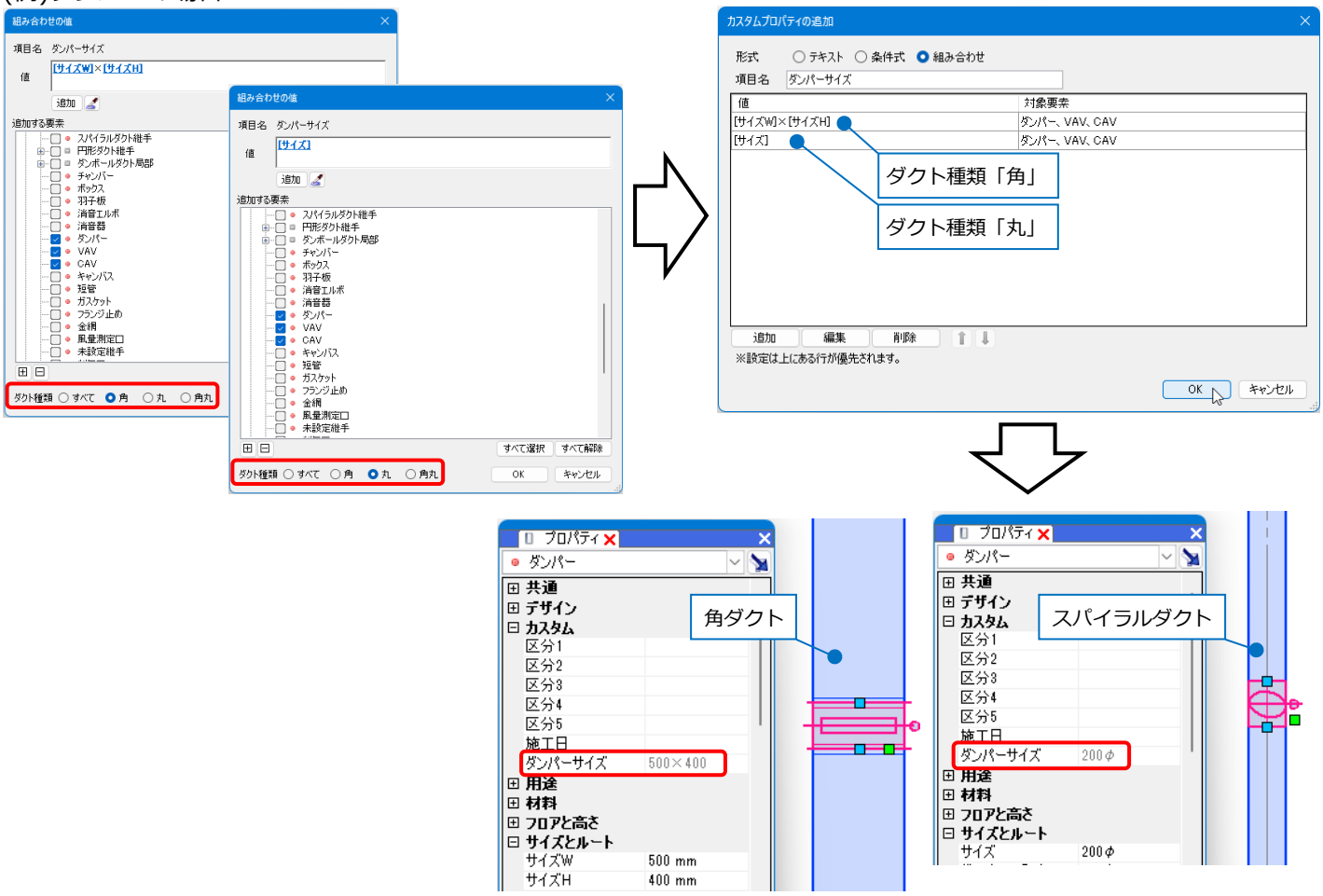


- 補足説明

ダクト関連の要素のみにチェックが入っている場合に[ダクト種類]のラジオボタンが有効になり、ダクト種類を「すべて」「角」「丸」「角丸」から選択できます。

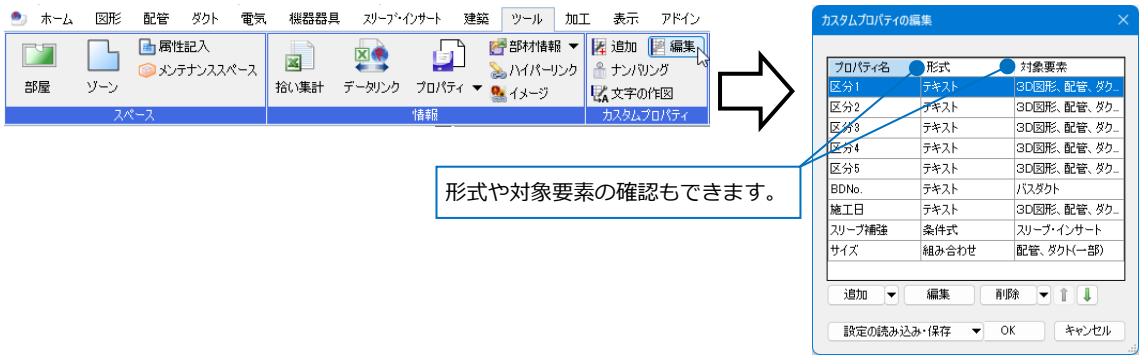
ダクト要素は、同じ要素タイプで角、丸、角丸のサイズを持つため、それを振り分けします。
ダクト種類が適用される要素は「消音エルボ」「消音器」「ダンパー」「VAV」「CAV」「キャンバス」「短管」「フランジ止め」「金網」です。

(例)ダンパーの場合



カスタムプロパティの編集

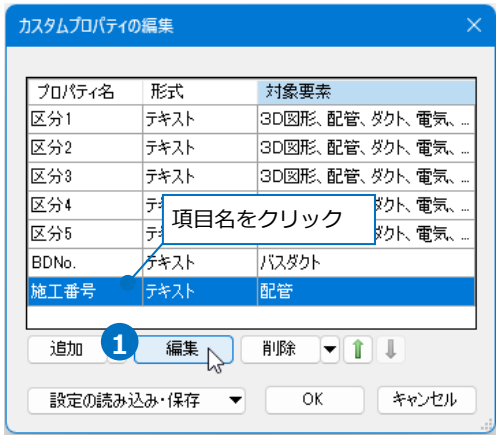
[ツール]タブ-[編集]をクリックし、カスタムプロパティの項目について編集ができます。



形式や対象要素の確認もできます。

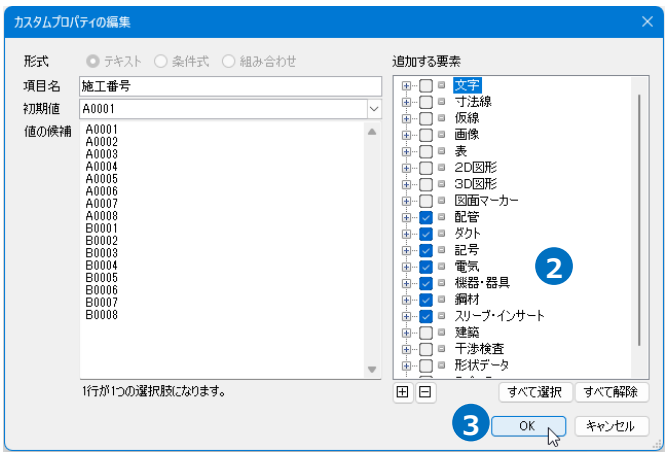
項目の編集

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより編集する項目名を指定し、[編集]をクリックします。



2 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより、各項目を編集します。
※形式は固定となります。

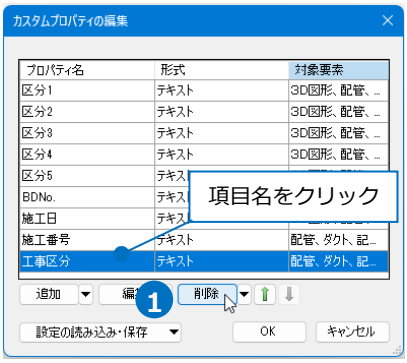
3 [OK]をクリックします。



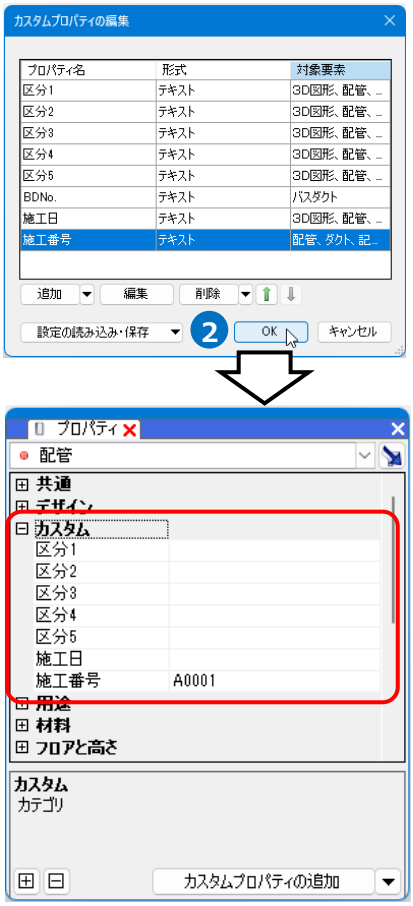
4 [カスタムプロパティの編集]ダイアログの[OK]をクリックします。
→カスタムプロパティの内容が更新されます。

項目の削除

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより項目名を指定し、[削除]をクリックします。



2 [OK]をクリックします。
→カスタムプロパティの項目が削除されます。



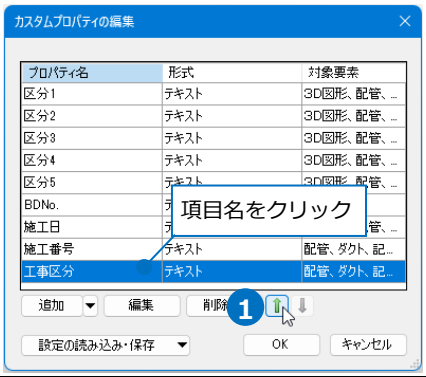
Memo

[削除]横の[▼]より、[すべて削除]をクリックすると、カスタムプロパティの項目を一括で削除することができます。

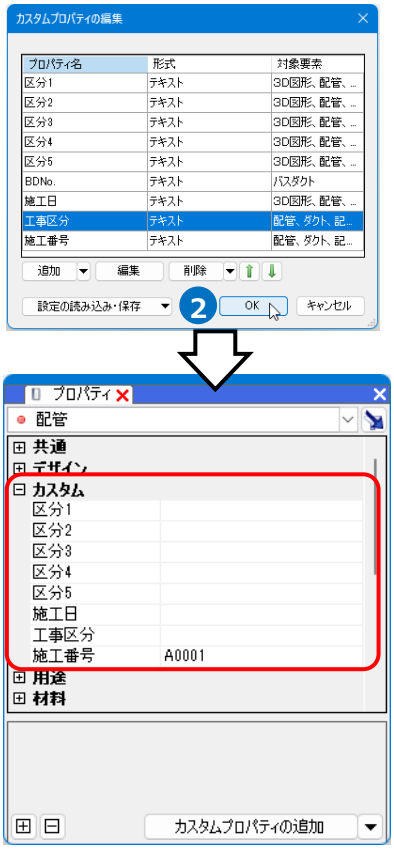
表示順の変更

[プロパティ]-[カスタム]の表示順を変更します。

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより項目名を指定し、矢印をクリックします。



2 [OK]をクリックします。
→プロパティパネルで表示順が変更されます。



Memo

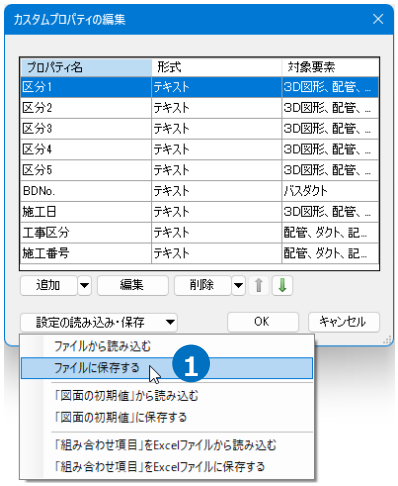
プロパティ項目をドラッグしても順番を変更できます。

設定ファイルの保存・読み込み

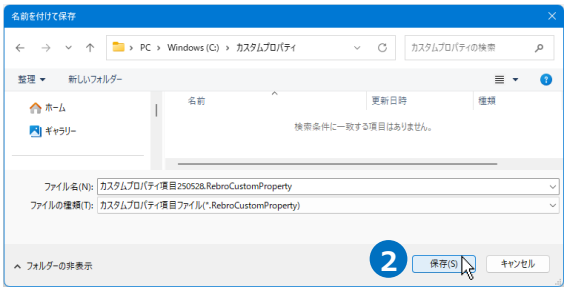
カスタムプロパティは図面ごとに設定します。同じカスタムプロパティの項目を他の図面で利用するには、設定ファイルを作成します。

設定ファイルを保存する

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[ファイルに保存する]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが開きます。

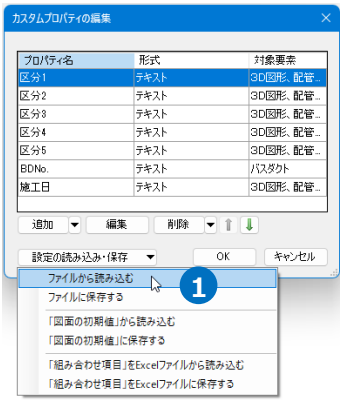


2 [名前を付けて保存]ダイアログでファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
→カスタムプロパティの設定ファイル(*.RebroCustomProperty)を保存します。

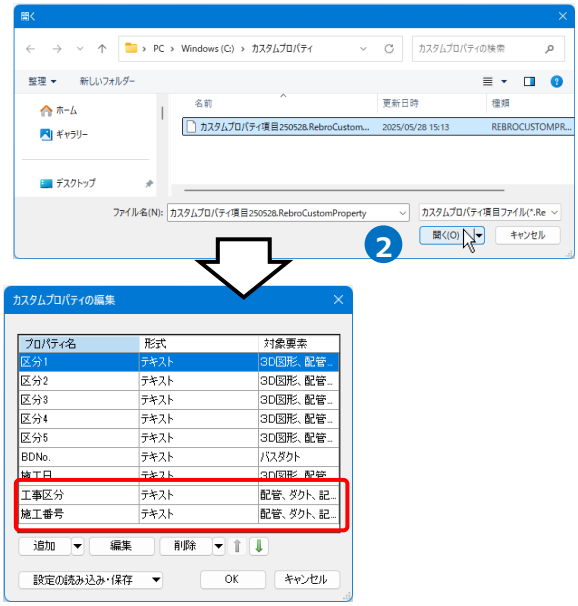


設定ファイルを読み込む

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[ファイルから読み込む]をクリックします。
→[開く]ダイアログが開きます。



2 [開く]ダイアログから読み込む設定ファイル(*.RebroCustomProperty)を選択し、[開く]をクリックします。
→カスタムプロパティが追加されます。

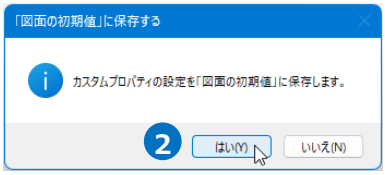


新規図面にカスタムプロパティを追加

追加したカスタムプロパティを新規図面で使用します。

1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[「図面の初期値」に保存する]をクリックします。
→[「図面の初期値」に保存する]ダイアログが開きます。

2 [「図面の初期値」に保存する]ダイアログの[はい]をクリックします。
→図面の初期値に設定が保存されます。



Memo
同名のプロパティ項目は上書きされます。

❸ [設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[ツール]-[カスタムプロパティ]で保存されたプロパティ項目を確認できます。

- 補足説明

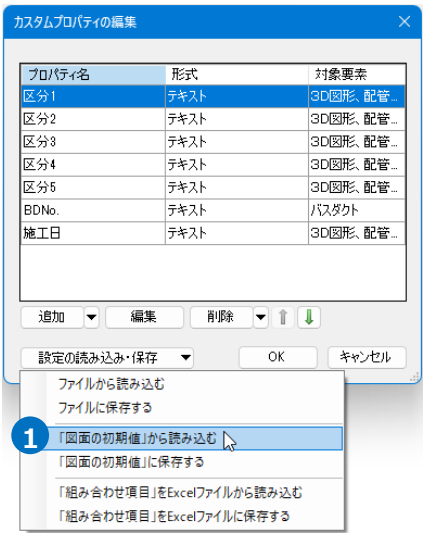
[設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[ツール]-[カスタムプロパティ]で新規図面のカスタムプロパティを編集することができます。

初期設定として「区分1」～「区分5」「BDNo.」「施工日」が設定されています。[編集]で既存の項目の編集、[追加]で項目を追加することができます。

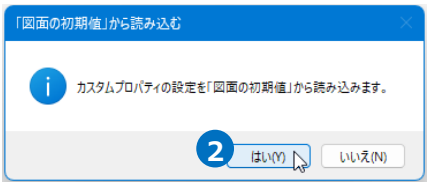
現在の図面にカスタムプロパティを読み込む

図面の初期値に保存したカスタムプロパティを現在の図面に読み込みます。

1. [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[「図面の初期値」から読み込む]をクリックします。
   →[「図面の初期値」から読み込む]ダイアログが開きます。



2. [「図面の初期値」から読み込む]ダイアログの[はい]をクリックします。
   →図面の初期値の設定が、現在の図面に読み込まれます。



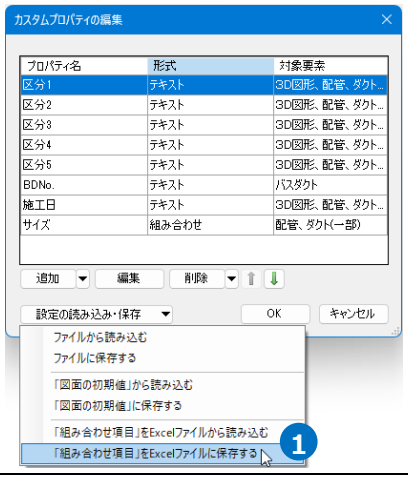
> Memo
> 図面上で設定した既存の項目がある場合、その項目は削除され、図面の初期値の設定に置き換わります。

「組み合わせ項目」の保存・読み込み

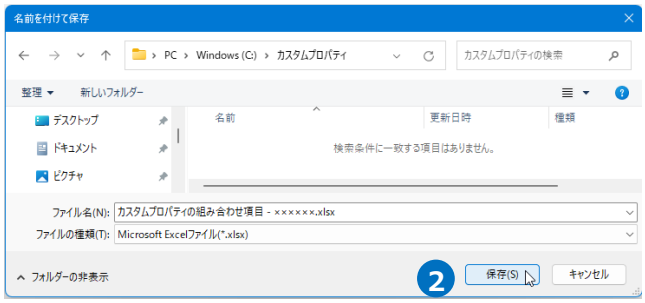
「組み合わせ」形式で追加したカスタムプロパティ項目をExcelファイルに保存し、編集して読み込むことができます。

Excelファイルを保存する

1. [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[「組み合わせ項目」をExcelファイルに保存する]をクリックします。
   →[名前を付けて保存]ダイアログが開きます。

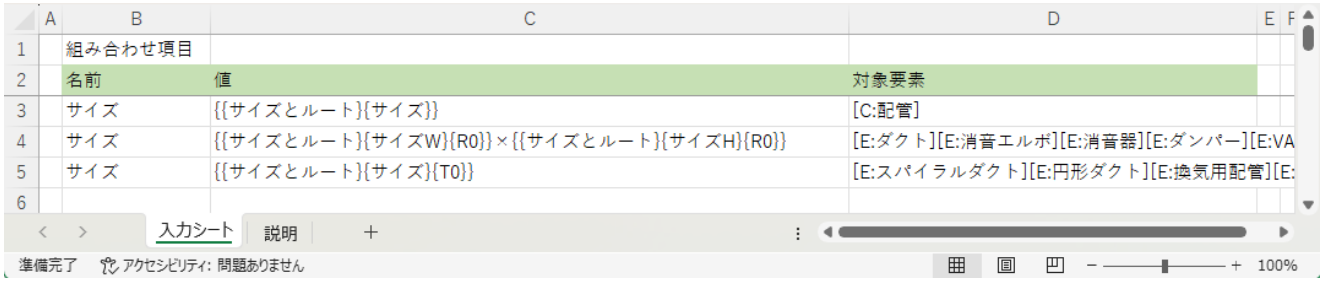


② [名前を付けて保存]ダイアログでファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
→組み合わせ項目のExcelファイルを保存します。



Excelファイルを編集する

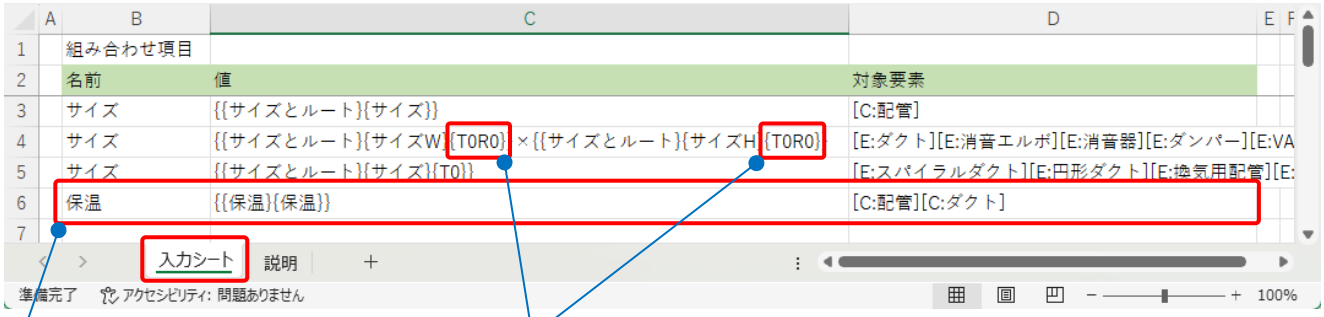
① 保存されたExcelファイルを開きます。



	A	B	C	D	E F
1		組み合わせ項目			
2		名前	値	対象要素	
3		サイズ	{{サイズとルート}{サイズ}}	[C:配管]	
4		サイズ	{{サイズとルート}{サイズW}{R0}}×{{サイズとルート}{サイズH}{R0}}	[E:ダクト][E:消音エルボ][E:消音器][E:ダンパー][E:VA	
5		サイズ	{{サイズとルート}{サイズ}{T0}}	[E:スパイラルダクト][E:円形ダクト][E:換気用配管][E:	
6					

入力シート　説明　＋
準備完了　アクセシビリティ: 問題ありません　100%

② ワークシート[入力シート]で編集し、上書き保存します。



	A	B	C	D	E F
1		組み合わせ項目			
2		名前	値	対象要素	
3		サイズ	{{サイズとルート}{サイズ}}	[C:配管]	
4		サイズ	{{サイズとルート}{サイズW}{T0R0}}×{{サイズとルート}{サイズH}{T0R0}}	[E:ダクト][E:消音エルボ][E:消音器][E:ダンパー][E:VA	
5		サイズ	{{サイズとルート}{サイズ}{T0}}	[E:スパイラルダクト][E:円形ダクト][E:換気用配管][E:	
6		保温	{{保温}{保温}}	[C:配管][C:ダクト]	
7					

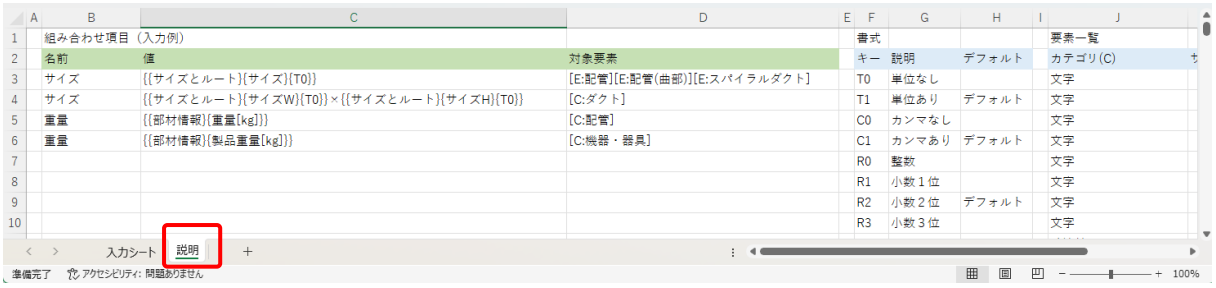
入力シート　説明　＋
準備完了　アクセシビリティ: 問題ありません　100%

プロパティ項目「保温」を追加

書式を「単位なし」に変更

Memo

ワークシートを[説明]に切り替えると組み合わせ項目の入力例や書式などを確認できます。



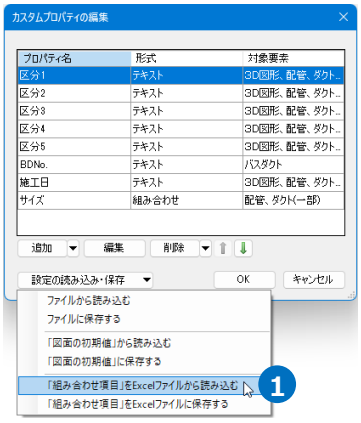
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		組み合わせ項目（入力例）				書式				要素一覧
2		名前	値	対象要素		キー	説明	デフォルト		カテゴリ(C)
3		サイズ	{{サイズとルート}{サイズ}{T0}}	[E:配管][E:配管(曲部)][E:スパイラルダクト]		T0	単位なし			文字
4		サイズ	{{サイズとルート}{サイズW}{T0}}×{{サイズとルート}{サイズH}{T0}}	[C:ダクト]		T1	単位あり	デフォルト		文字
5		重量	{{部材情報}{重量[kg]}}	[C:配管]		C0	カンマなし			文字
6		重量	{{部材情報}{製品重量[kg]}}	[C:機器・器具]		C1	カンマあり	デフォルト		文字
7						R0	整数			文字
8						R1	小数１位			文字
9						R2	小数２位	デフォルト		文字
10						R3	小数３位			文字

入力シート　説明　＋
準備完了　アクセシビリティ: 問題ありません　100%

Excelファイルを読み込む

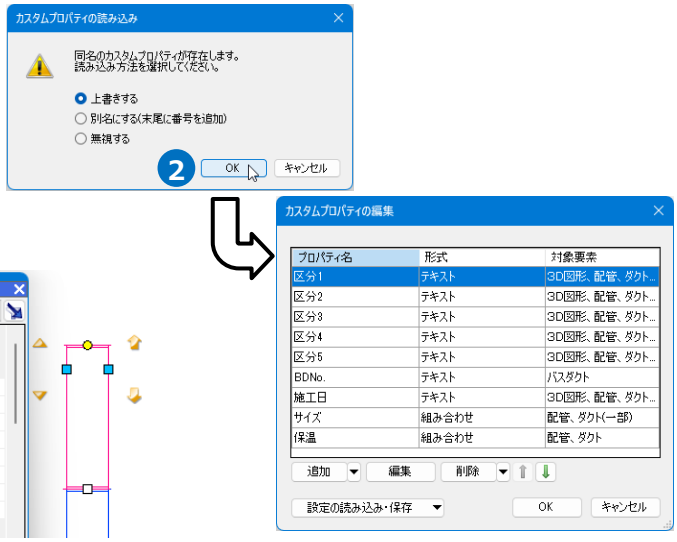
1 [カスタムプロパティの編集]ダイアログより[設定の読み込み・保存]-[「組み合わせ項目」をExcelファイルから読み込む]をクリックします。

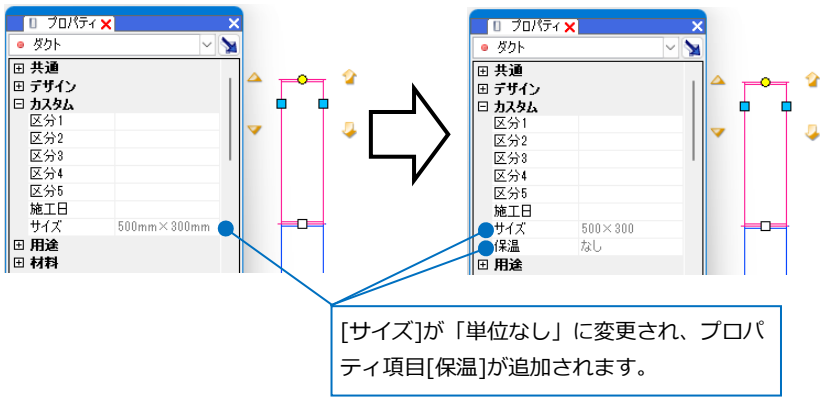
→同名のプロパティ項目名が存在する場合は[カスタムプロパティの読み込み]ダイアログが開きます。同名のプロパティ項目名が無い場合は、そのまま読み込まれます。



2 [カスタムプロパティの読み込み]ダイアログから同名のカスタムプロパティの読み込み方法を選択し[OK]をクリックします。

→Excelファイルで設定した内容が読み込まれます。





[サイズ]が「単位なし」に変更され、プロパティ項目[保温]が追加されます。

カスタムプロパティの利用

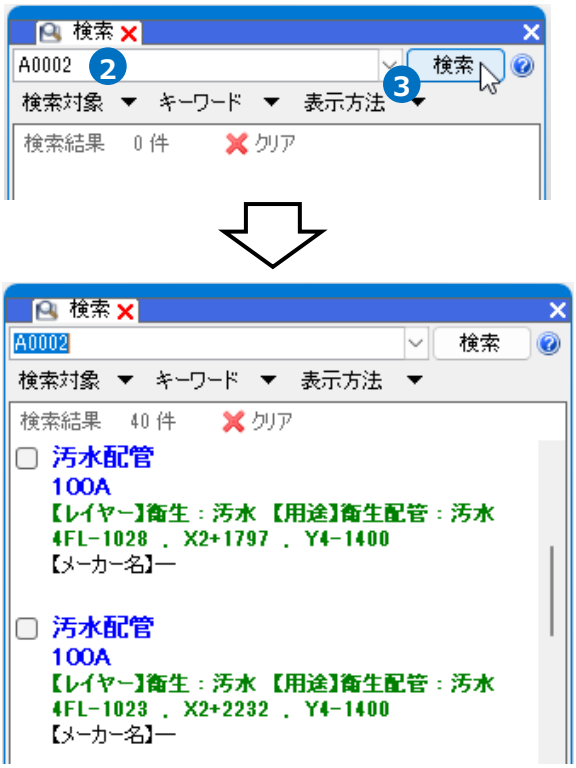
部材検索

カスタムプロパティの値から要素を検索できます。

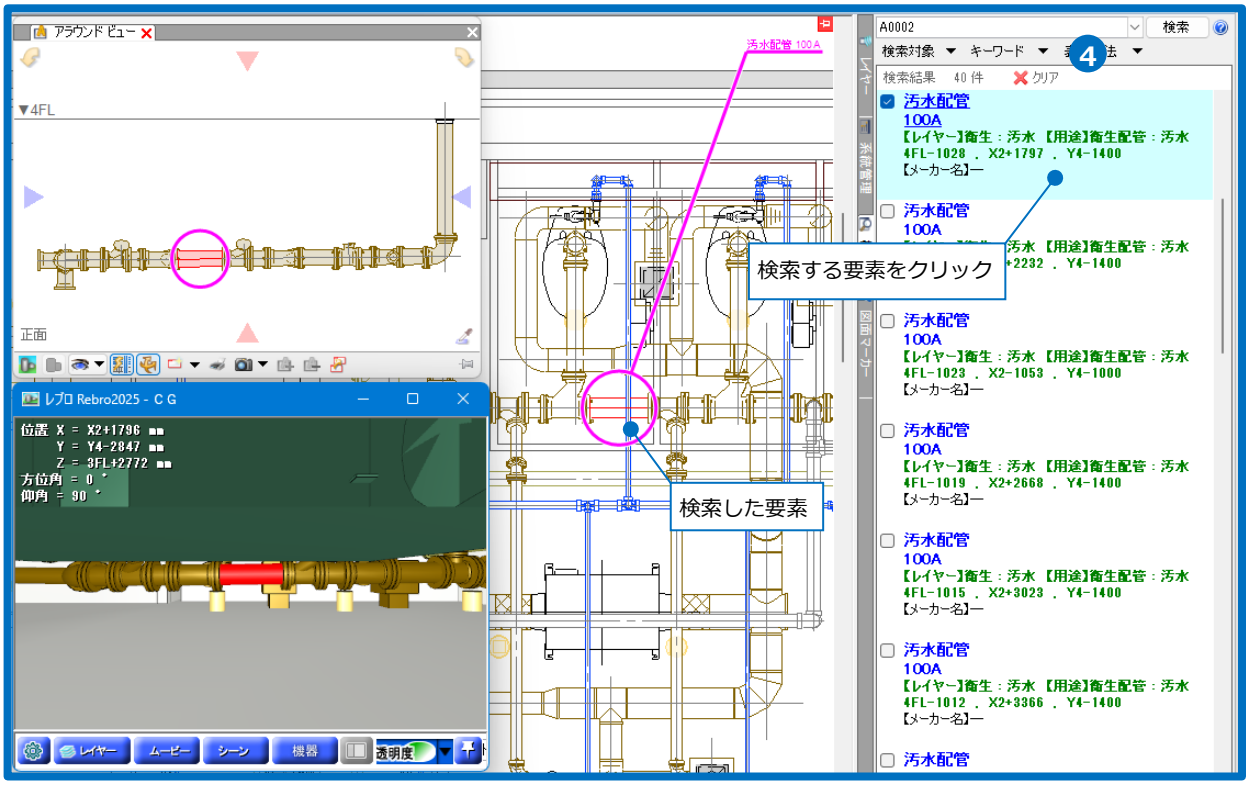
1 [検索]パネルの[キーワード]をクリックし、[キーワード]より[カスタムプロパティ]にチェックを入れます。

② 検索欄にプロパティの値を入力します。

③ [検索]をクリックします。
→検索結果が表示されます。

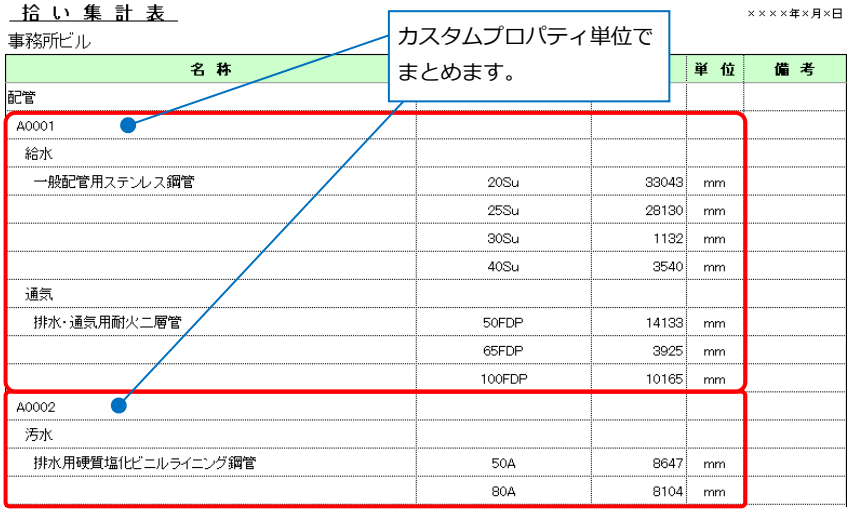


④ 要素名をクリックすると、要素を丸で囲み、名称を表示します。
同時にアラウンドビュー、CGを開いて指定した要素を赤表示します。
※チェックを外すと赤表示とピンクの丸の表示は消えます。



拾い集計

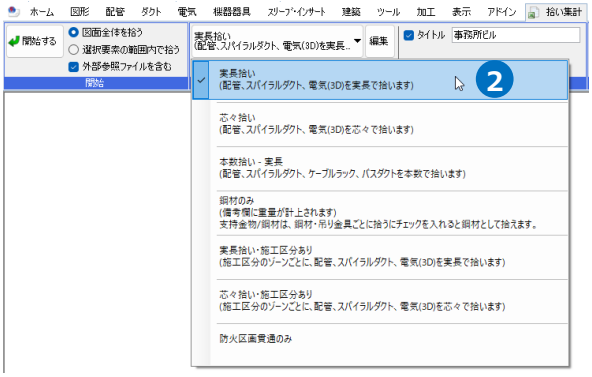
拾い集計の仕分けにカスタムプロパティの項目を追加すると、カスタムプロパティの値ごとに集計することができます。(拾い集計の出力の詳細については、テクニカルガイド「拾い集計」を参照してください。)



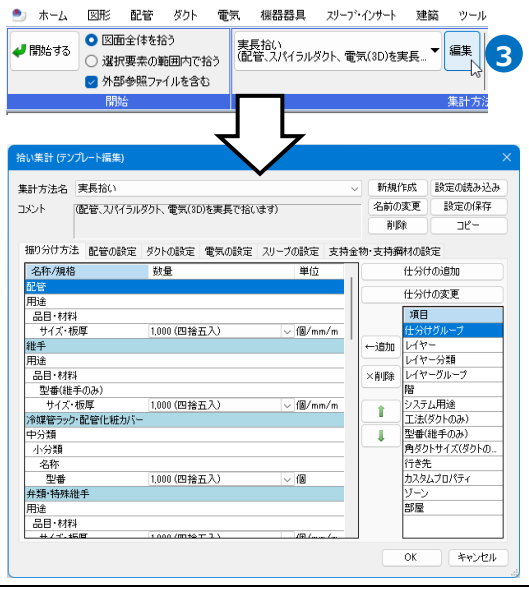
カスタムプロパティを仕分けに追加

1 [ツール]タブ-[拾い集計]をクリックします

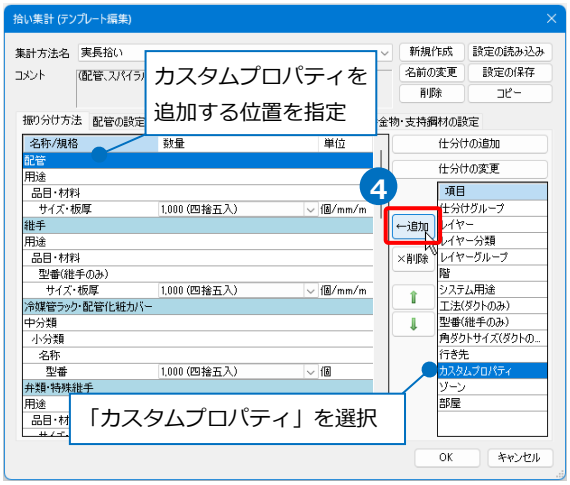
2 集計方法のテンプレートを選択します。



3 [編集]をクリックします。
→[拾い集計(テンプレート編集)]ダイアログが開きます。

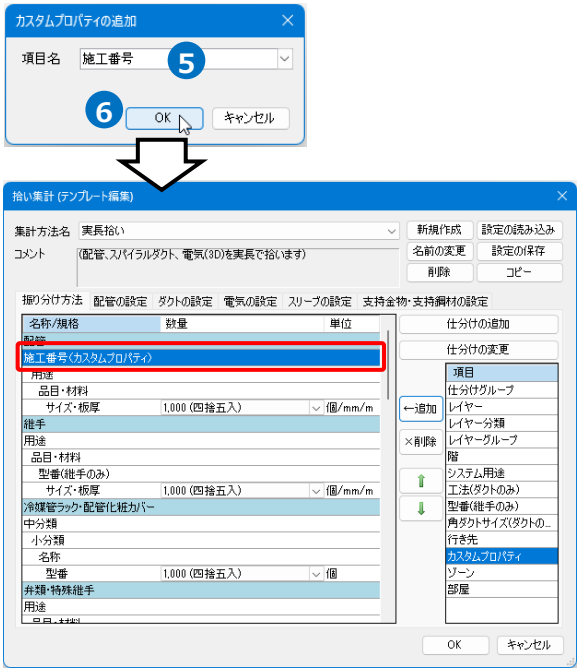


4 [振り分け方法]タブで、カスタムプロパティを追加する位置を指定します。
仕分け項目の「カスタムプロパティ」を選択し、[←追加]をクリックします。



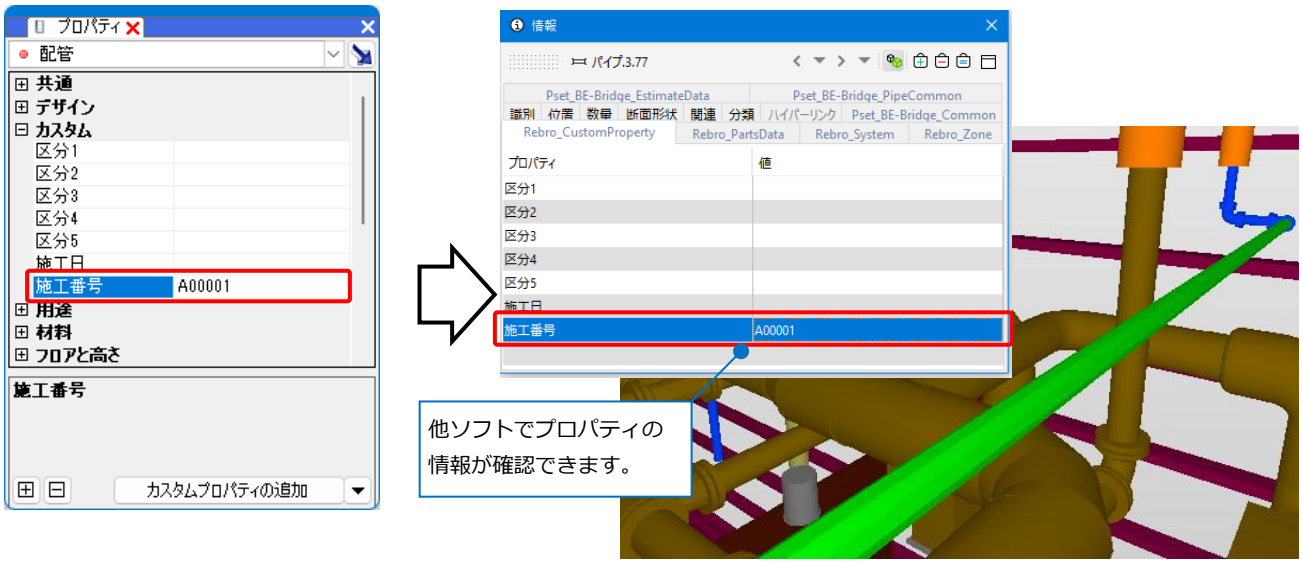
5 [カスタムプロパティの追加]ダイアログが開きます。追加するプロパティ項目を選択します。

6 [OK]をクリックします。
→カスタムプロパティの項目が追加されます。



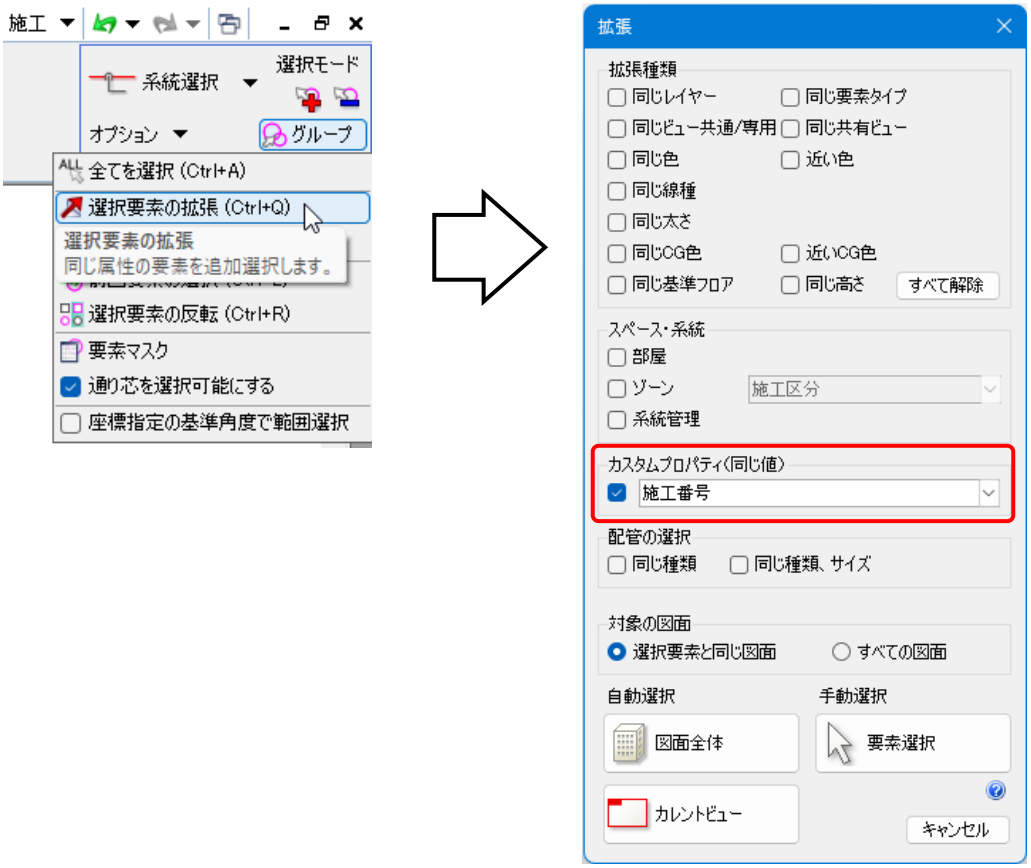
IFC保存

カスタムプロパティは、項目名を保持してIFCファイルに保存されます。



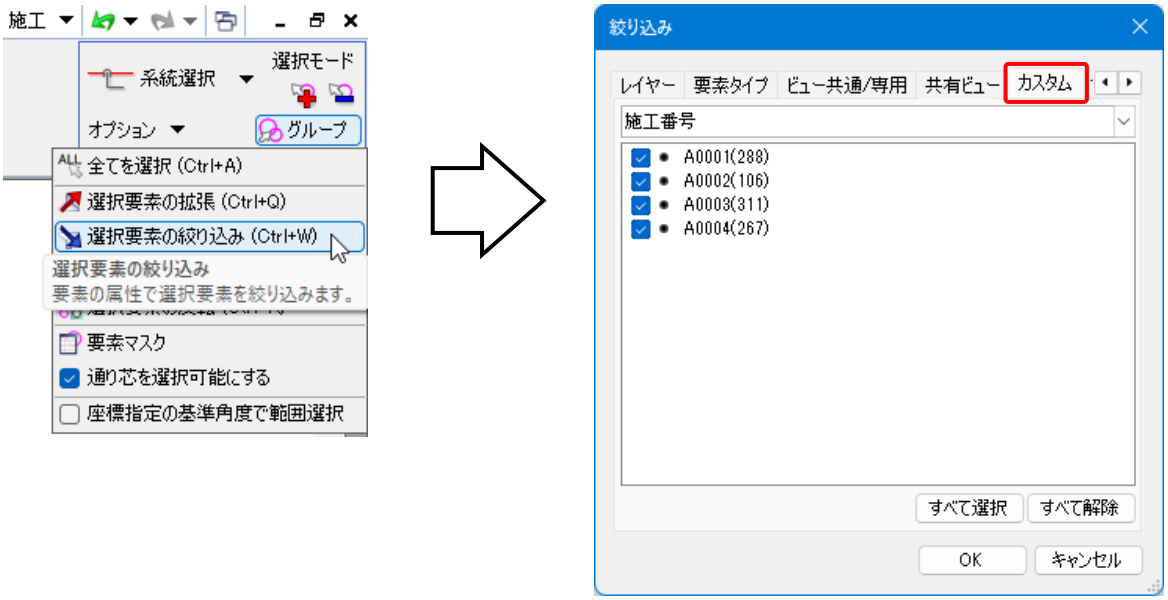
選択要素の拡張

[オプション]-[選択要素の拡張]で同じカスタムプロパティの要素のみを選択することができます。



選択要素の絞り込み

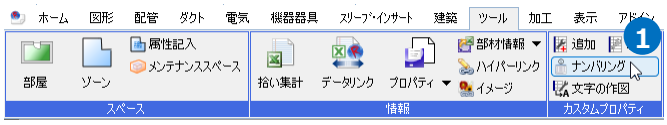
[オプション]-[選択要素の絞り込み]の[カスタム]タブで指定したカスタムプロパティの要素のみを絞り込んで選択できます。



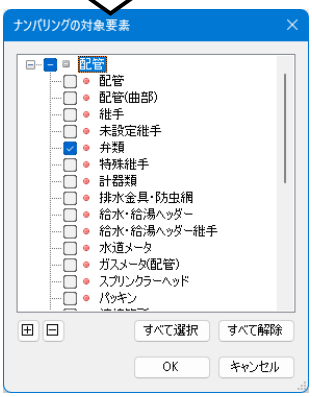
ナンバリング

カスタムプロパティの項目にナンバリングできます。

1 [ツール]タブ-[ナンバリング]を選択します。

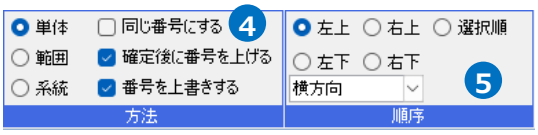


2 [カスタム項目]でナンバリングするカスタムプロパティの項目を選択します。
[対象要素]をクリックし、ナンバリングの対象要素を指定します。



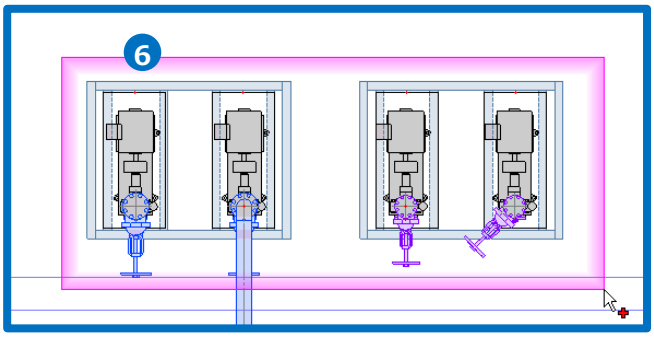
3 ナンバリングの開始番号を指定します。
[接頭語]：番号の先頭に付加する文字列を指定します。
[接尾語]：番号の末尾に付加する文字列を指定します。

4 ナンバリングの方法を指定します。
「単体」：ナンバリングする要素を1つずつ指定します。
「範囲」：ナンバリングする1系統内のルート2本を指定し、その間をナンバリングします。
(1つ目に選択したルートからナンバリングします。)
「系統」：系統上の1本のルートを指定して1系統まとめてナンバリングします。

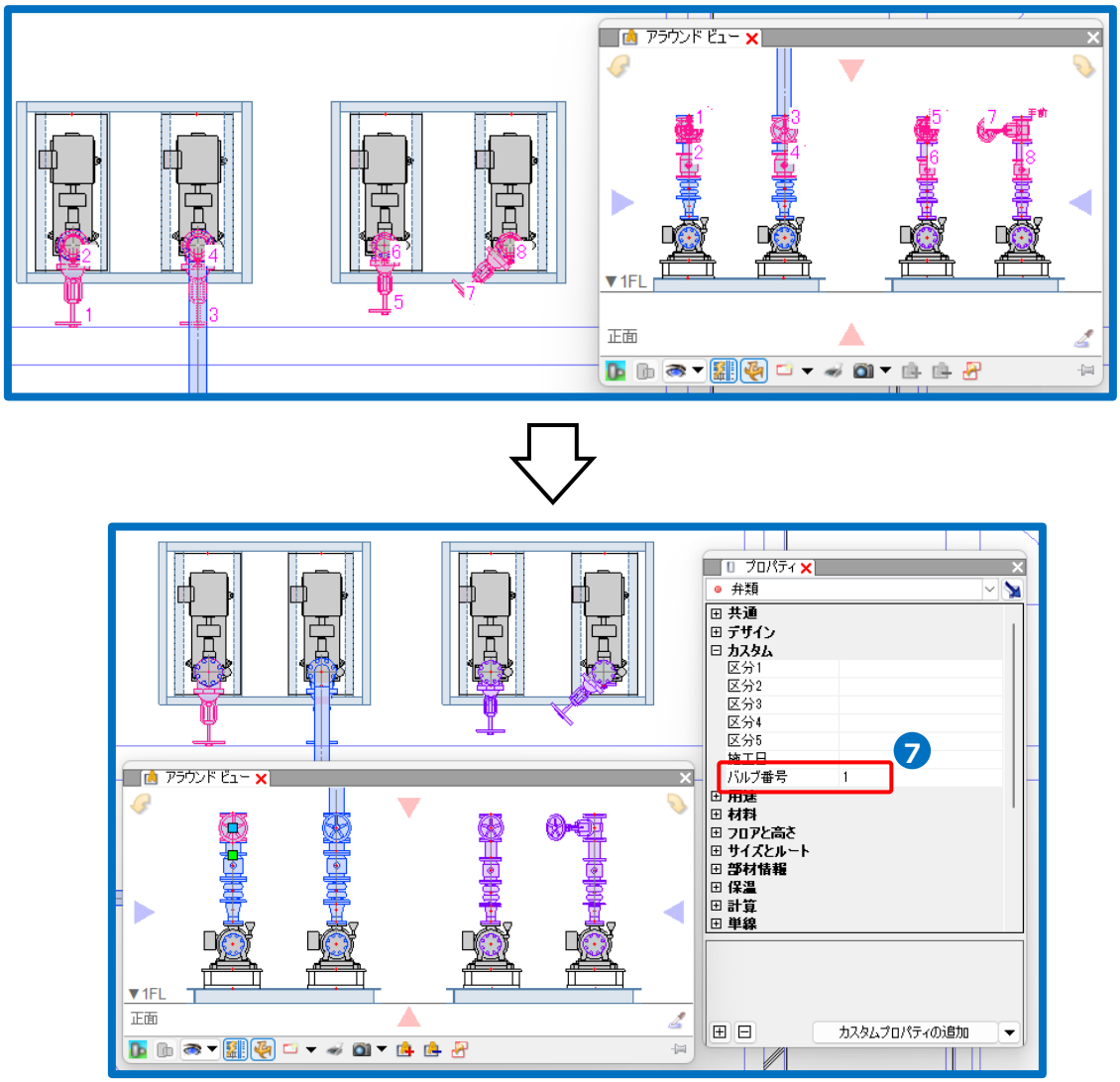


5 ナンバリングの順序を指定します。

6 ナンバリングしたい要素を選択します。

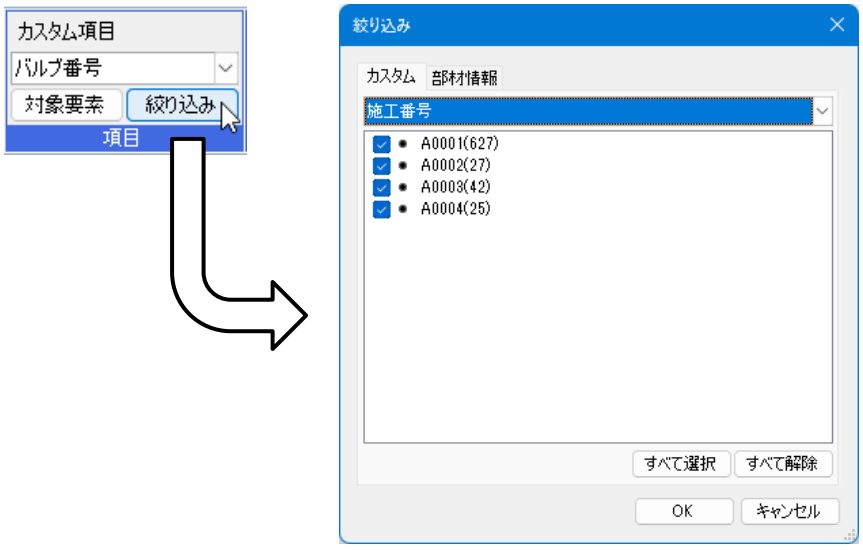


7 対象要素のカスタムプロパティがナンバリングされます。



- 補足説明

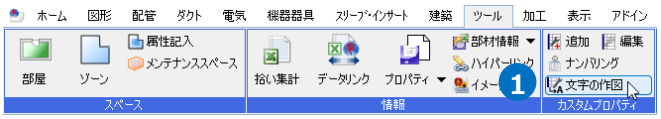
[絞り込み]からナンバリングする要素をプロパティ項目[カスタム][部材情報]の値で絞り込むことができます。



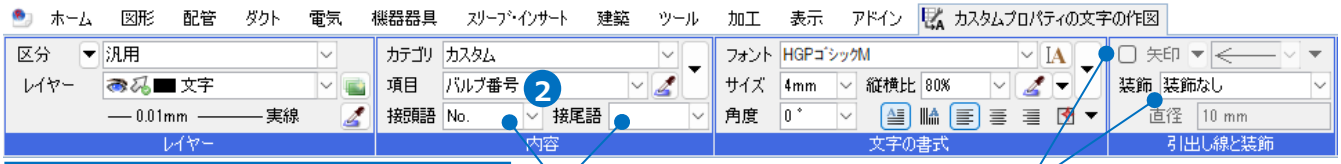
文字の作図

カスタムプロパティの情報とリンクした文字を図面上に記入することができます。

1 [ツール]タブ-[文字の作図]をクリックします。



2 記入するプロパティ項目を [項目]から選択します。

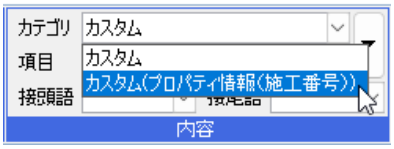


カスタムプロパティの値の前後に表示する文字を設定できます。

矢印や装飾が設定できます。

Memo

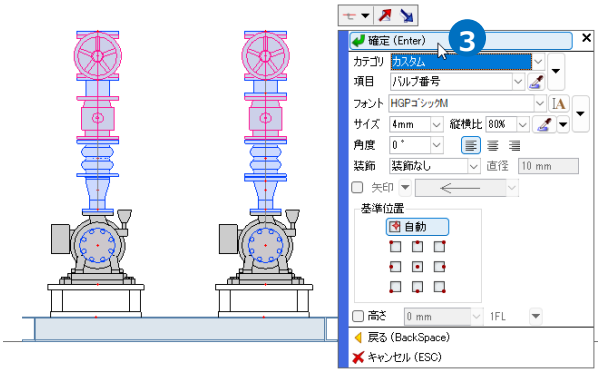
[プロパティの参照]を行っている場合はカテゴリを選択します。([プロパティの参照]についてはp.33をご確認ください。)



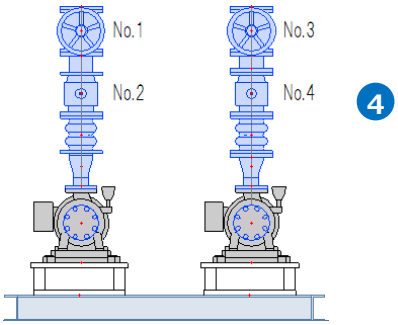
3 記入したい要素を選択し、コンテキストメニューの[確定]をクリックします。

Memo

選択したカスタムプロパティの対象要素のみ選択できます。

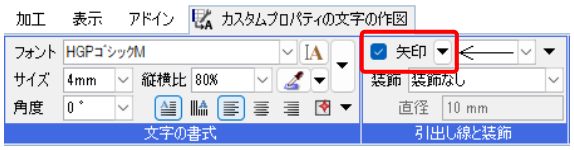


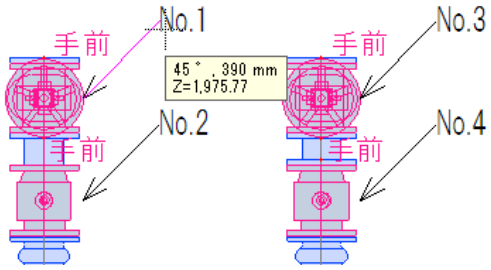
4 配置したい位置でクリックすると文字が作図されます。



● 補足説明

[矢印]のチェックを入れて、複数の要素を選択すると、引出し線付きの文字を同時に作図することができます。



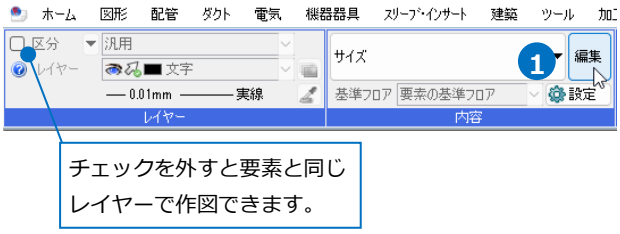


サイズ記入

カスタムプロパティの情報をサイズ記入文字で図面上に記入することができます。

1 [配管][ダクト][電気][建築]タブ-[サイズ記入]をクリックし、リボンの[編集]をクリックします。

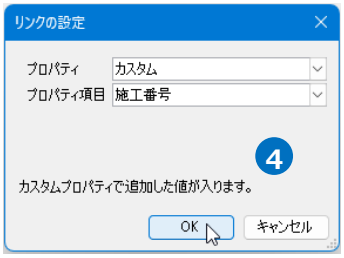
※[電気]タブ-[長さ記入]、[機器器具][スリーブ・インサート]タブ-[名称記入]、[ツール]タブ-[属性記入]でも可能です。



2 [サイズ記入の設定]が開きます。[リンク項目追加]をクリックします。

3 [リンクの設定]が開きます。[プロパティ]のプルダウンから「カスタム」を選択します。

4 [プロパティ項目]で記入したいカスタムプロパティ項目を選択して[OK]をクリックします。

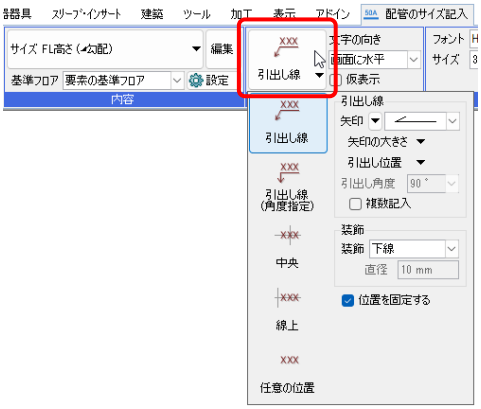


5 [OK]をクリックします。

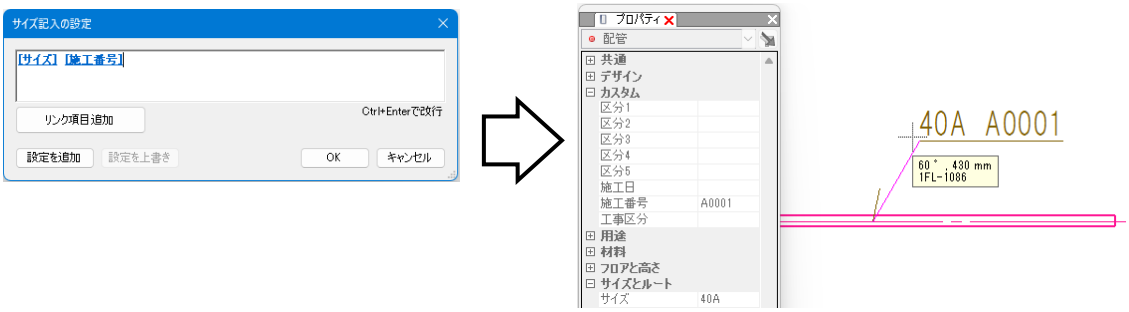
6 要素を選択すると設定したカスタムプロパティの値を記入できます。

- 補足説明

[作図方法]パネルから作図方法が選択できます。



2の[リンク項目追加]で既存のプロパティ項目を追加すると、カスタムプロパティ項目と同時に記入することができます。



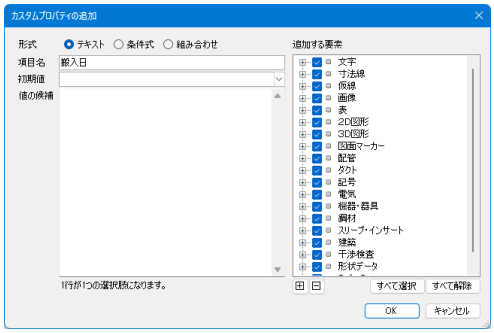
2D図形などのサイズ記入に未対応の要素の場合は、p.23の[文字の作図]を使用します。

2.進捗管理

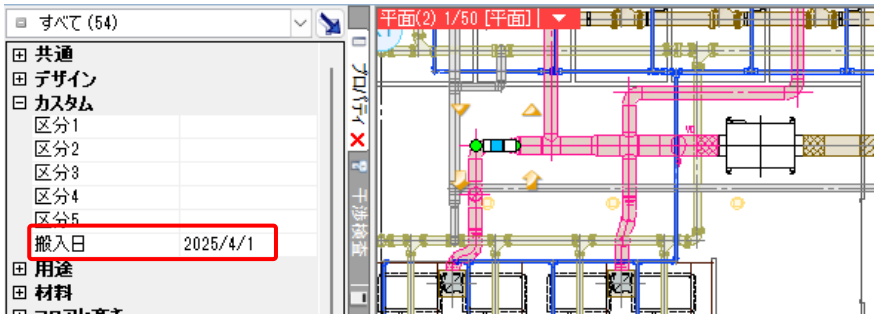
「進捗管理」は、カスタムプロパティに入力された搬入日や施工日などの日付から、工事の進捗状況を図面上で色分け表示して確認することができます。

カスタムプロパティの設定

[ツール]タブ-[追加]をクリックし、[カスタムプロパティの追加]ダイアログより、進捗管理に反映させる項目名を追加します。(p.2参照)



要素を選択し、[カスタムプロパティの追加]で追加した項目に日付を入力します。



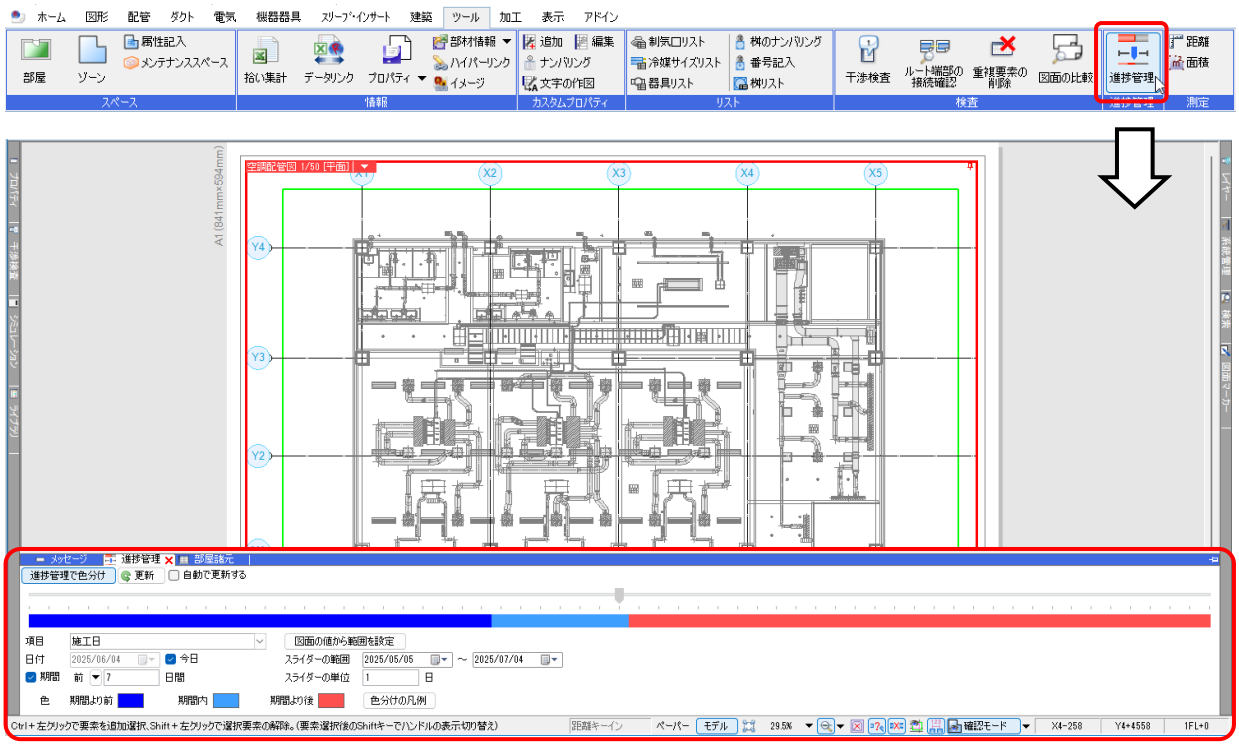
- 補足説明

以下のフォーマットで入力すると日付として認識されます。数値は半角です。

フォーマット	認識する日付	フォーマット	認識する日付
2025年4月10日	2025年4月10日	2025/4	2025年4月1日
2025/4/10	2025年4月10日	2025.4	2025年4月1日
2025.4.10	2025年4月10日	2025-4	2025年4月1日
2025-4-10	2025年4月10日	4月1日	現在の年の4月1日
令和7年4月10日	2025年4月10日	4/1	現在の年の4月1日
25年4月10日	2025年4月10日	4.1	現在の年の4月1日
25/4/10	2025年4月10日	4-1	現在の年の4月1日
25.4.10	2025年4月10日	2025年	2025年1月1日
25-4-10	2025年4月10日	4月	現在の年の4月1日
2025年4月	2025年4月1日	1日	現在の年の1月1日

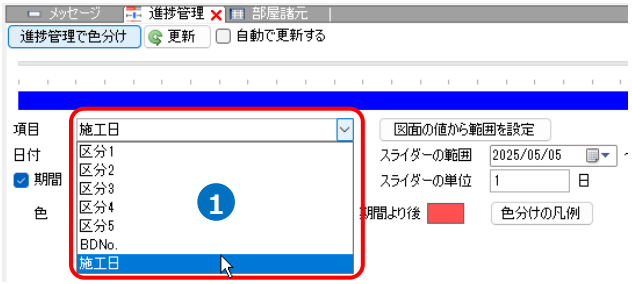
[進捗管理]パネルの表示

[ツール]タブ-[進捗管理]をクリックすると、[進捗管理]パネルが開きます。

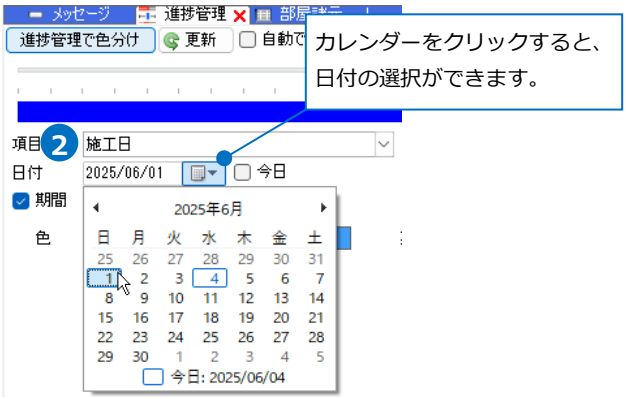


[進捗管理]パネルの設定

1 [進捗管理]パネルの[項目]で日付を設定したカスタムプロパティの項目を選択します。

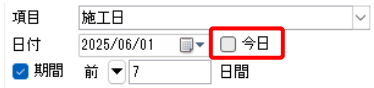


2 [日付]で、進捗管理の色分けの基準となる日を設定します。
日付を入力するか、カレンダーをクリックして、日付を選択します。

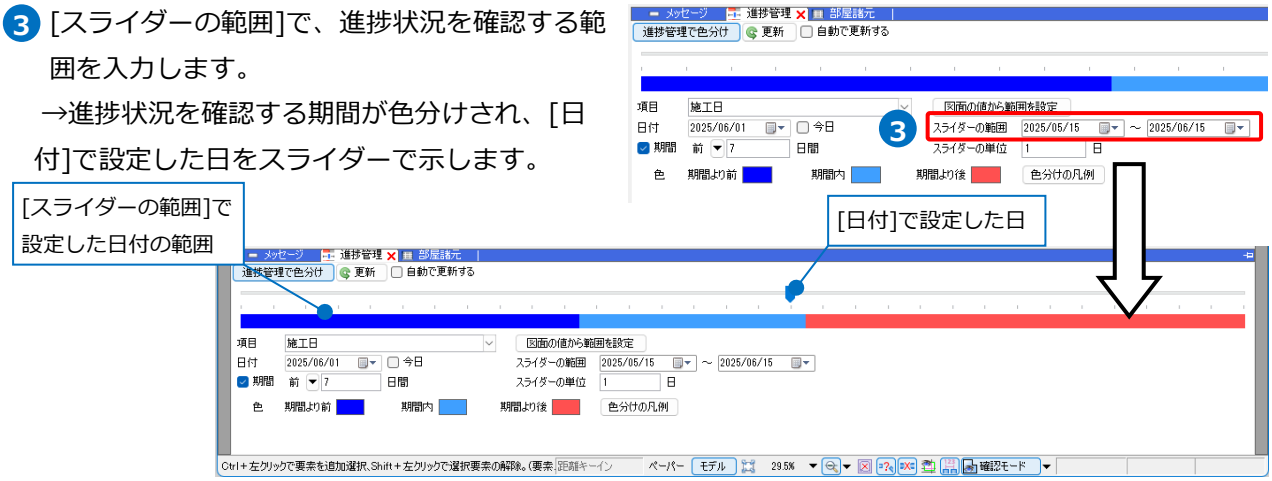


Memo

[今日]にチェックを入れると、現在の日付が設定されます。

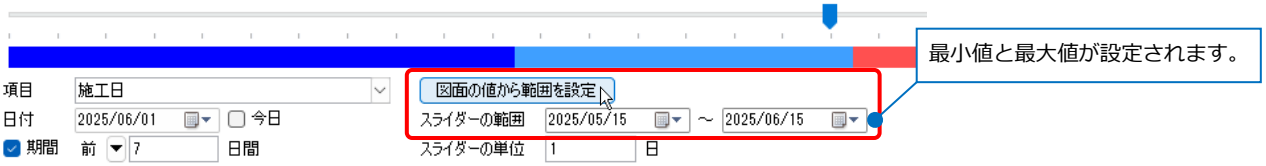


❸ [スライダーの範囲]で、進捗状況を確認する範囲を入力します。
→進捗状況を確認する期間が色分けされ、[日付]で設定した日をスライダーで示します。

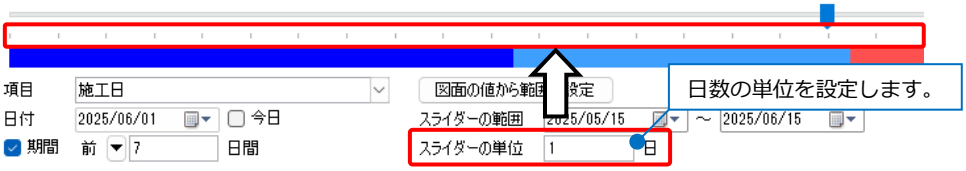


● 補足説明

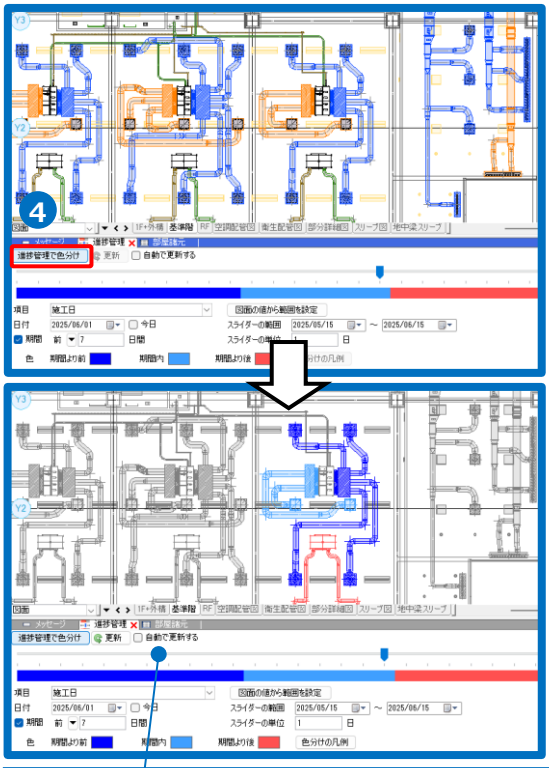
[図面の値から範囲を設定]をクリックすると、図面上のカスタムプロパティで設定した最小値を[スライダーの範囲]の開始日に、最大値を終了日に再設定します。



[スライダーの単位]で、スライダーのメモリの単位を日数で設定します。

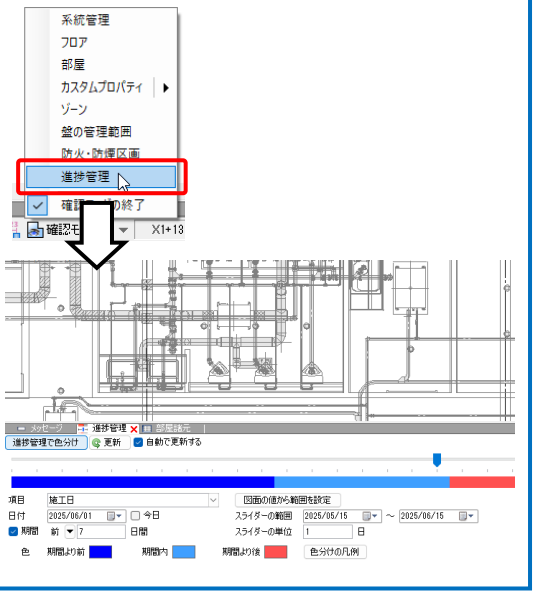


4 [進捗管理で色分け]をクリックしてオンにします。
→日付けを設定した要素を期間で色分けした色で表示します。

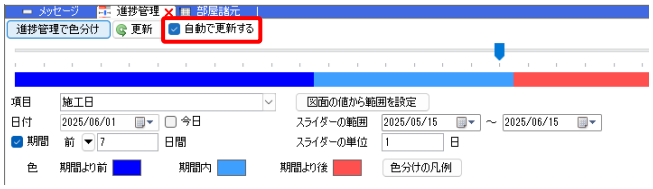


Memo

[確認モード]の[進捗管理]をクリックすると、[進捗管理で色分け]がオンの状態で[進捗管理]パネルが開きます。

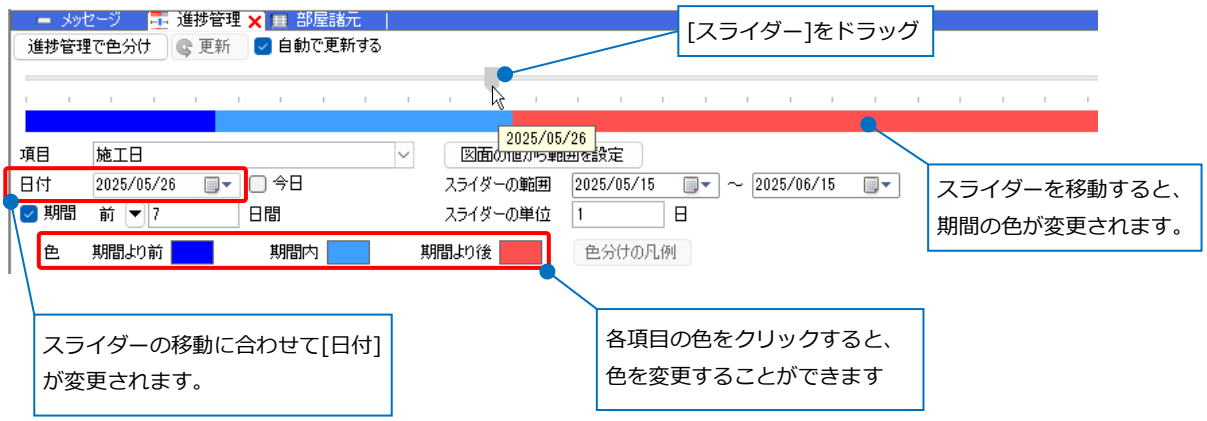


チェックを入れると、日付、または期間を変更した時点で、[色]で設定した色に更新されます。チェックを外すと、[更新]をクリックした時点で反映されます。



● 補足説明

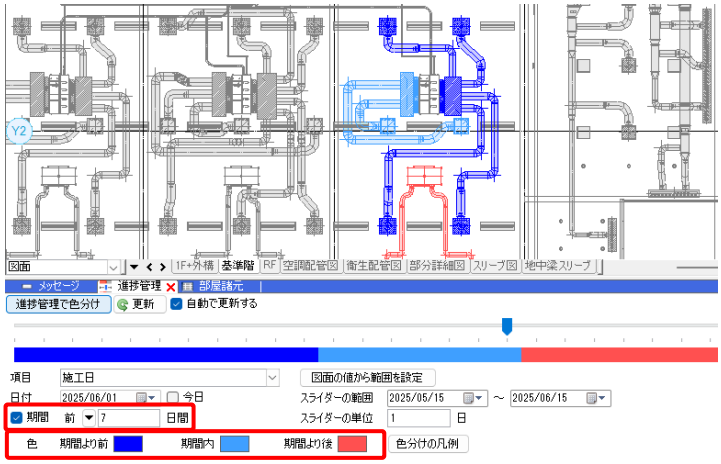
[今日]のチェックを外した状態でスライダーをドラッグして移動すると、[日付]が変更され、期間の色も変更されます。



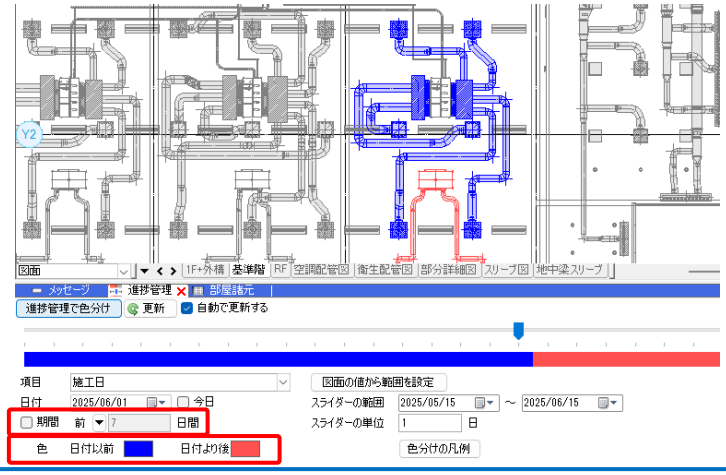
- 補足説明

カスタムプロパティで設定した日付に合わせて期間の色分けを行います。

[期間]にチェックを入れた場合、[期間]に入力した日数の範囲を[期間内]、期間より前の日付を[期間より前]、期間より後の日付を[期間より後]とし、該当する要素を[色]で設定した3色で色分けします。
[期間]の横の[前]または[後]を切り替えることができます。



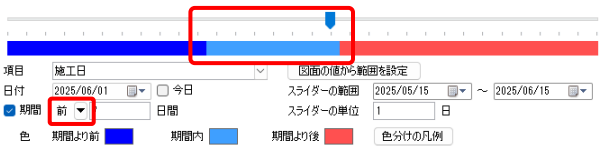
[期間]のチェックを外した場合、[日付]で設定した日を基準に[日付以前][日付より後]の2色で色分けされます。



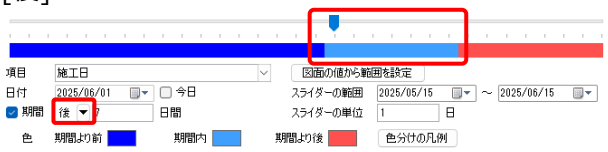
Memo

[期間]にチェックを入れた場合、[日付]を基準に[前][後]どちらを[期間内]とするかを選択できます。

[前]



[後]



色分けの凡例

設定した色分けを凡例表として作図します。

1 [色分けの凡例]をクリックします。

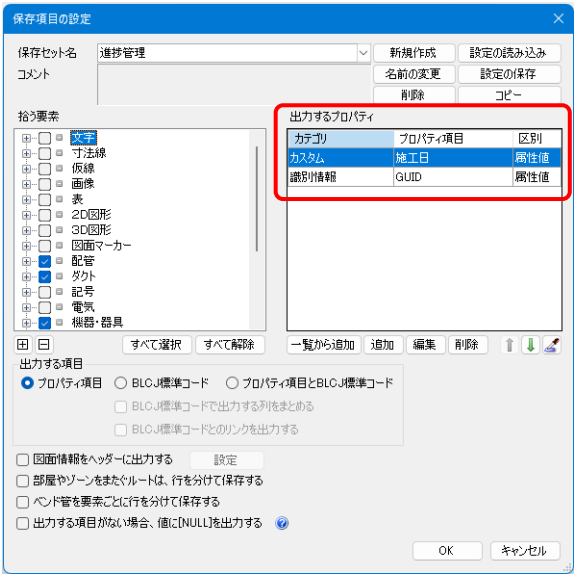
2 凡例表の配置位置を指定します。

日付の読み込み、参照

カスタムプロパティの日付を、[プロパティの保存]でCSVファイル出力し、編集したCSVファイルを[プロパティの読み込み]で取り込み、または、[プロパティの参照]で参照させることができます。
現場の日程を変更するなどの場合は、[プロパティの読み込み]で取り込み、計画の日程を参考として確認するなどの場合は、CSVファイルを読み込まずに[プロパティの参照]で参照するなどで使い分けることができます。

プロパティの保存

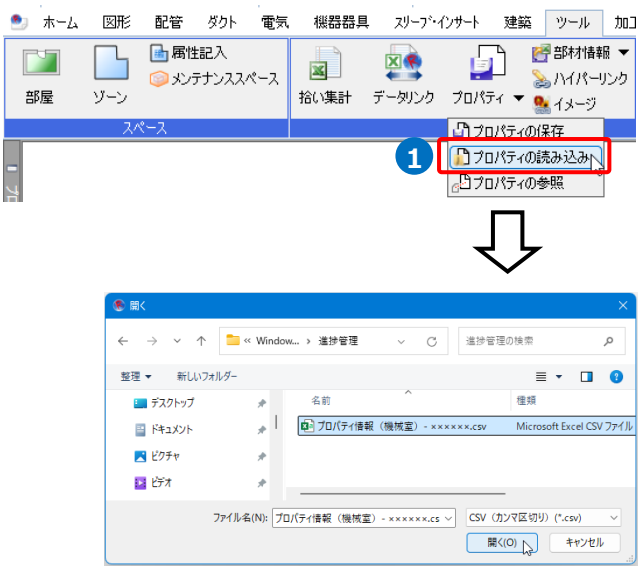
[ツール]タブ-[プロパティの保存]の[出力するプロパティ]で、項目を設定して保存します。
[カスタム]の日付を設定している項目と、キーとして参照するプロパティの項目(ここでは、[識別情報]-[GUID]を使用します)は必須で選択します。
(詳細はテクニカルガイド「プロパティの保存・読み込み・参照」参照)



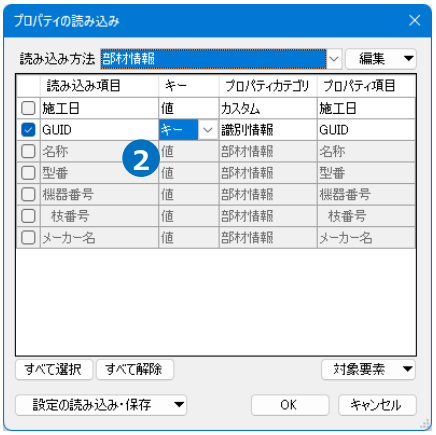
読み込み

Excelなどで編集したCSVファイルを読み込み、キーの一致する要素の日付を更新します。

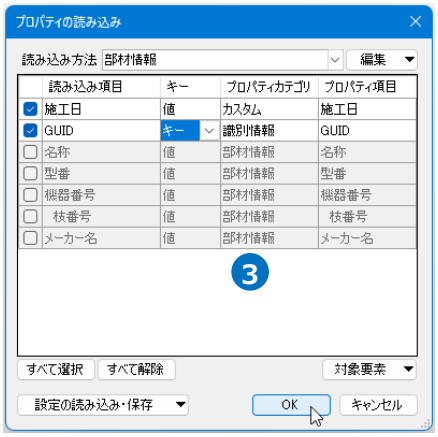
1. [ツール]タブ-[プロパティ]-[プロパティの読み込み]をクリックし、[開く]ダイアログからCSVファイルを選択し、[開く]をクリックします。



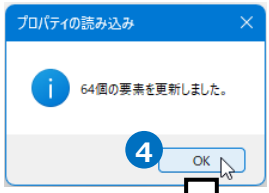
② [プロパティの読み込み]ダイアログが開きます。
キーとして参照するプロパティ項目にチェックを入れ、「キー」を選択します。

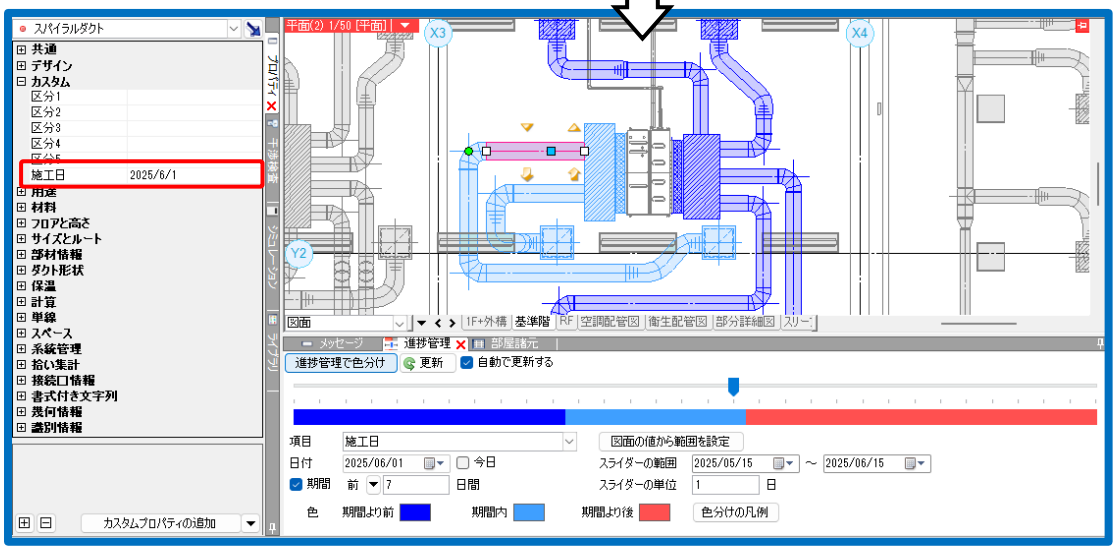


③ 日付を設定している項目にチェックを入れ、「値」を選択します。[プロパティカテゴリ]は「カスタム」を選択して[OK]をクリックします。



④ 更新した要素の数が表示されます。[OK]をクリックします。
→読み込まれた要素のプロパティの[カスタム]の日付の情報が更新され、[進捗管理]パネルの設定で色分けされます。

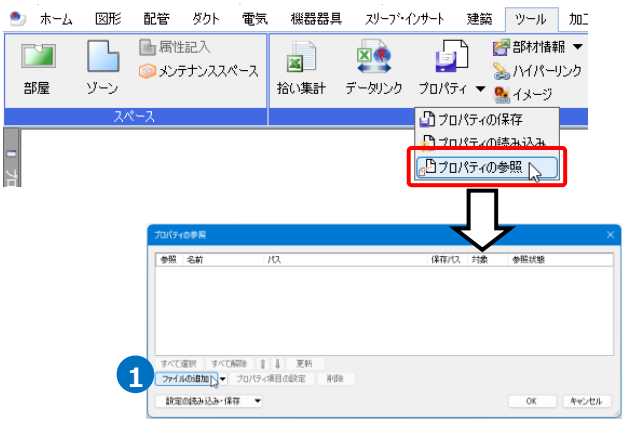




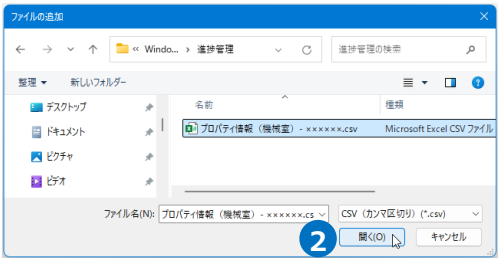
参照

指定したCSVファイルのキーのプロパティ項目の値と同じ値を持つ要素に日付を参照して設定します。

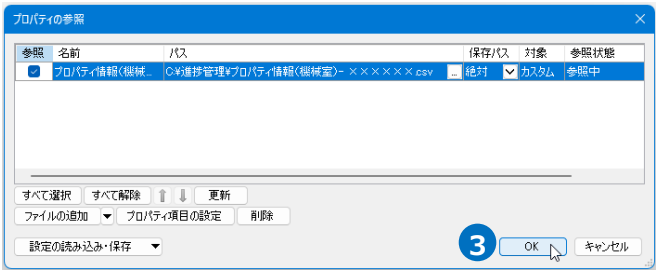
1. [ツール]タブ-[プロパティ]-[プロパティの参照]をクリックし、[プロパティの参照]ダイアログで[ファイルの追加]をクリックします。



2. [ファイルの追加]ダイアログで参照するCSVファイルを選択し、[開く]をクリックします。

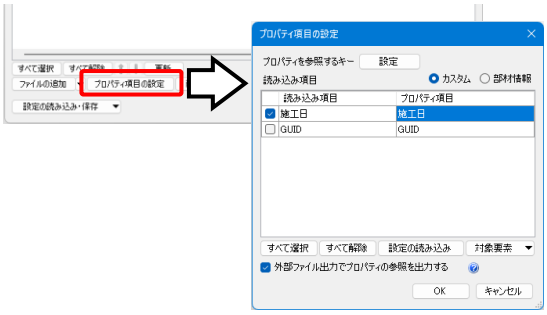


3. [プロパティの参照]ダイアログが表示され、選択したCSVファイルが表示されます。[OK]をクリックします。

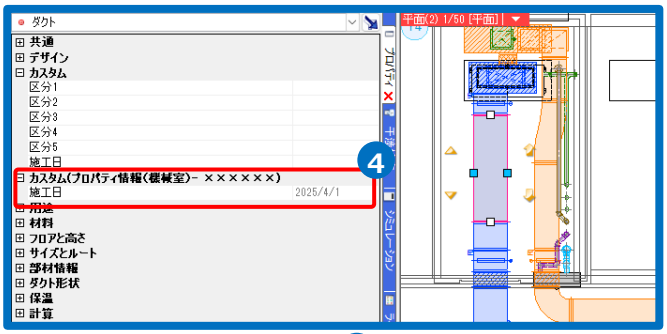


Memo

[プロパティ項目の設定]で、参照する項目やキーを選択できます。



4. 読み込まれた要素のプロパティに[カスタム(参照ファイル名)」項目が追加されます。

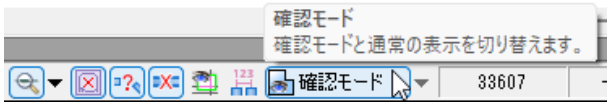


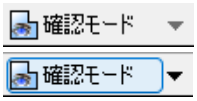
5. [進捗管理]パネルの[項目]をクリックし、参照ファイル名に切り替えてカスタムの項目名を選択します。

3.確認モード

確認モードを使用すると、カスタムプロパティ、進捗管理の項目ごとに要素を色分けして表示し、図面上とCGで確認することができます。

[確認モード](画面右下)をオンにすると、選択した項目の値ごとに色分けして確認することができます。





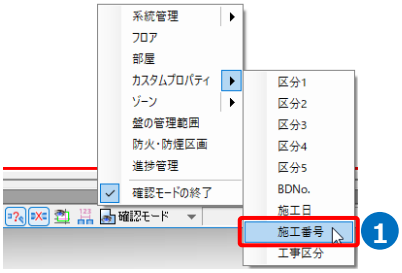
：確認モード オフ

：確認モード オン

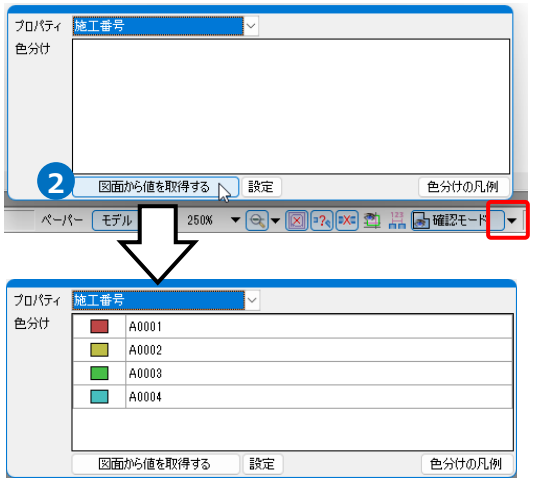
確認モードの起動

カスタムプロパティの確認

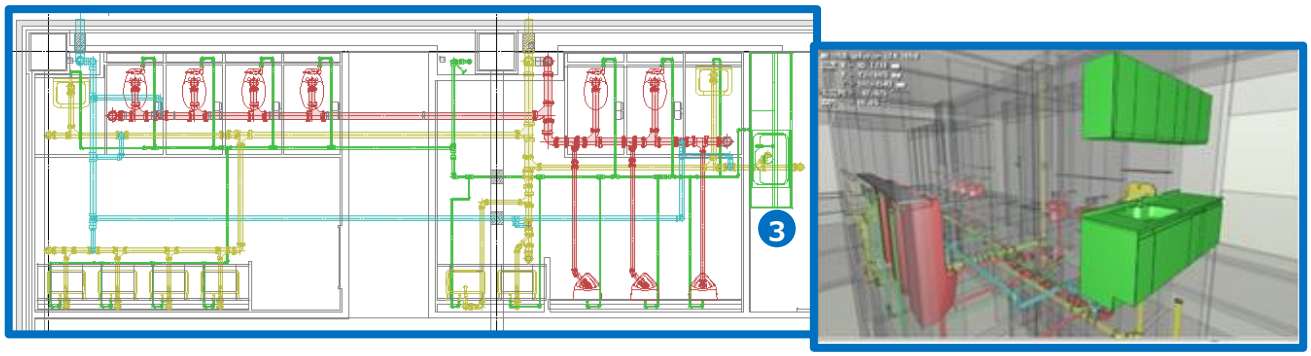
1 [確認モード]をクリックし、[カスタムプロパティ]から確認したいプロパティ項目名をクリックします。



2 [確認モード]横の[▼]をクリックし、
[図面から値を取得する]をクリックします。
→図面上に設定しているカスタムプロパティの値と色が表示されます。



3 画面をクリックしてメニューを閉じます。
→カスタムプロパティの値ごとに色分けして図面上とCGで表示されます。

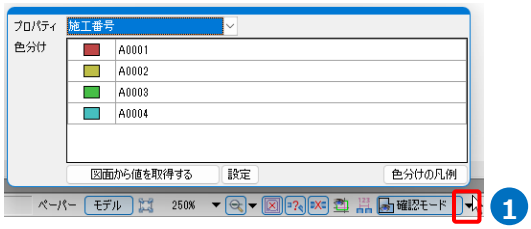


色の変更

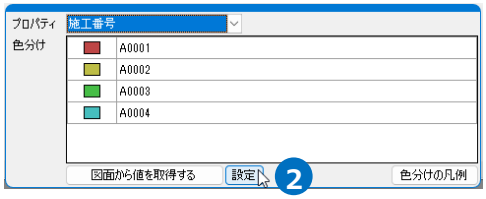
値ごとの色を変更します。

カスタムプロパティ

1 [確認モード]がオンの状態で[確認モード]横の[▼]をクリックします。

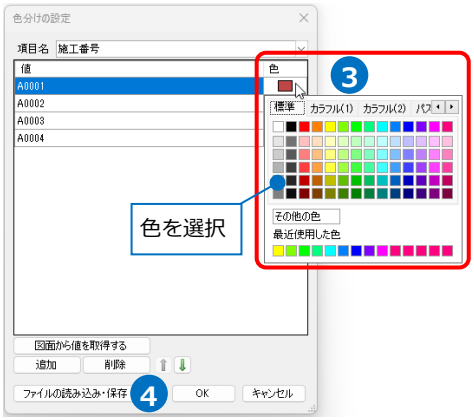


2 [設定]をクリックします。
→[色分けの設定]ダイアログが開きます。



3 [色分けの設定]ダイアログで変更する色をクリックし、色を変更します。

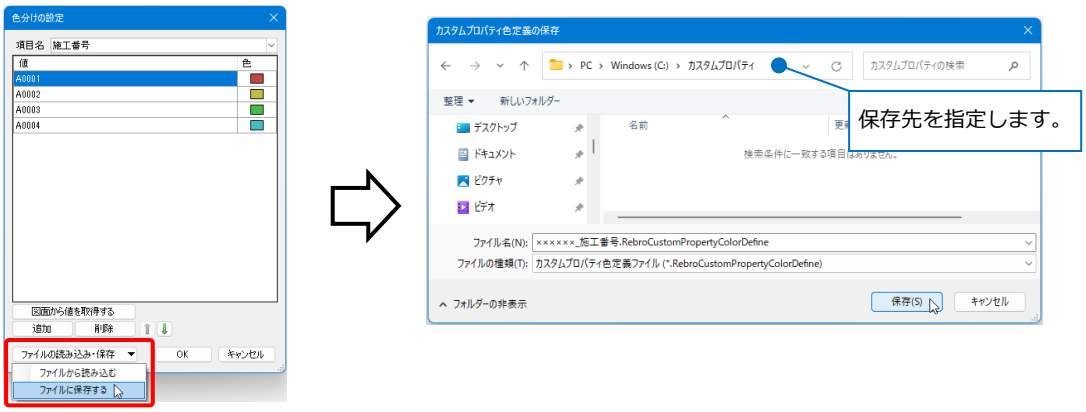
4 [OK]をクリックします。



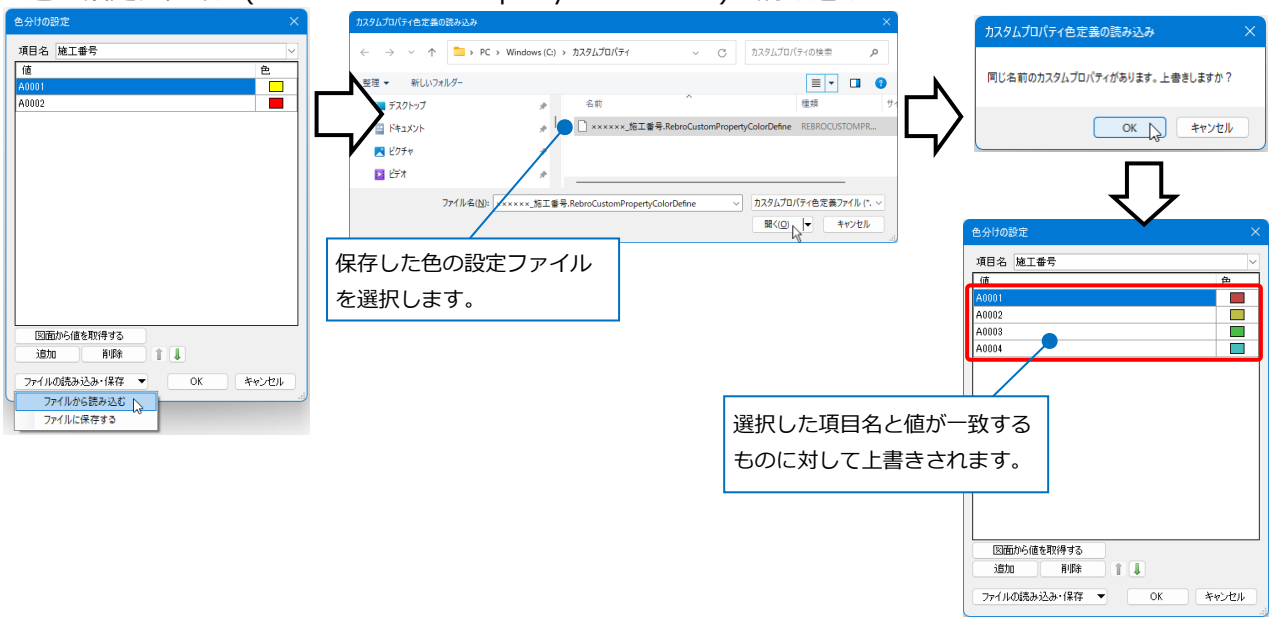
- 補足説明

カスタムプロパティは、[色分けの設定]ダイアログの[ファイルの読み込み・保存]-[ファイルに保存する]で色の設定をファイルで保存し、保存した設定ファイルを[ファイルから読み込む]で読み込むことで他の図面でも同じ色の設定を使用することが可能です。

・色の設定をファイル(*.RebroCustomPropertyColorDefine)に保存

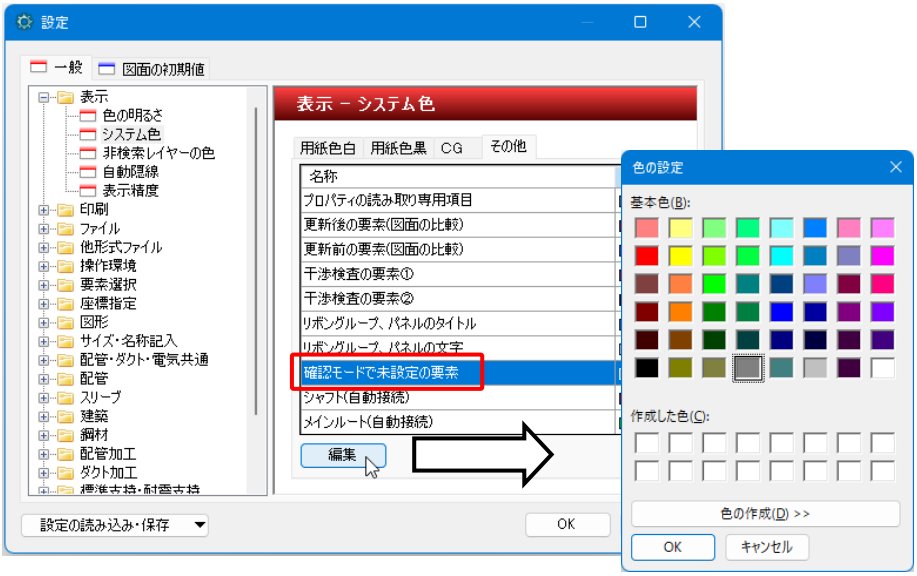


・色の設定ファイル(*.RebroCustomPropertyColorDefine)を読み込み



選択した項目以外の要素の色

選択した各項目に含まれない要素の色は、[設定]-[一般]タブ-[表示]-[システム色]の[その他]タブの[確認モードで未設定の要素]で変更することができます。



- 補足説明

[確認モード]がオンの状態で図面を印刷すると、画面に表示されている色のまま印刷することができます。

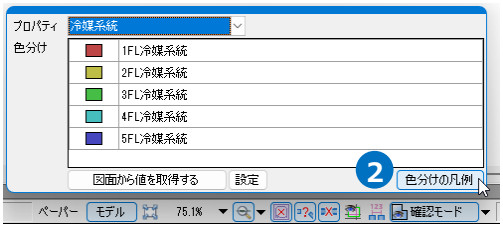
色分けの凡例

設定した色分けを凡例表として作図します。

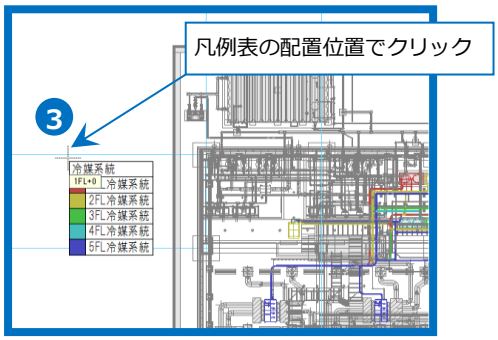
カスタムプロパティ

1 [確認モード]がオンの状態で[確認モード]横の[▼]をクリックします。

2 [色分けの凡例]をクリックします。

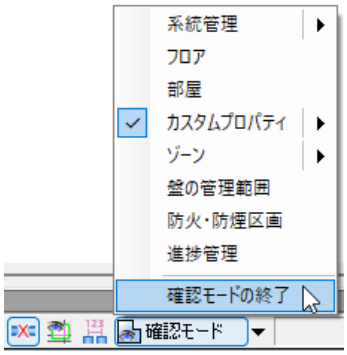


3 凡例表の配置位置を指定します。



- 補足説明

[進捗管理]の確認モードについては、p.29～30を参照してください。

確認モードの終了

[確認モード]を終了する場合は、[確認モード]をクリックし、[確認モードの終了]をクリックします。